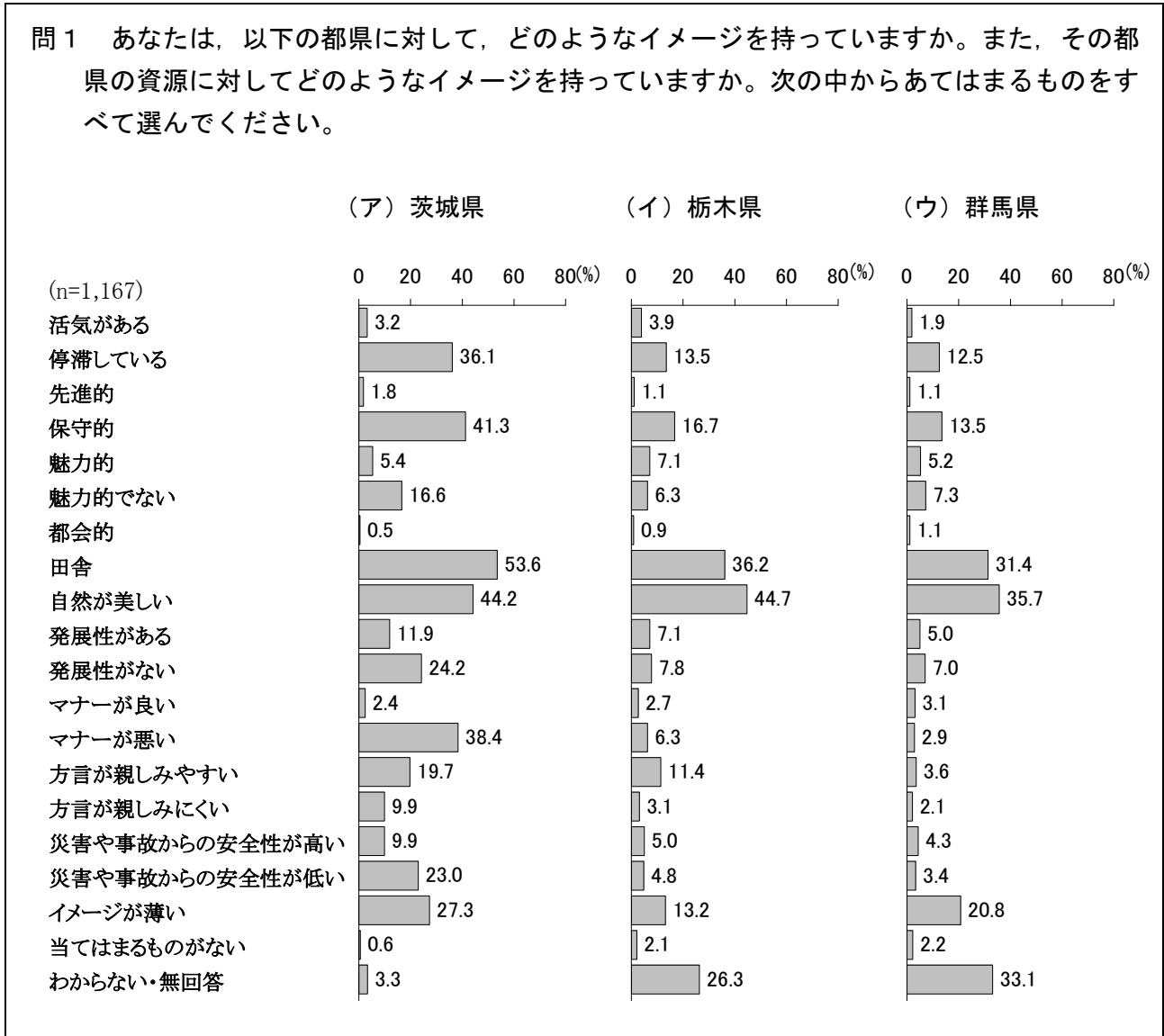


## Ⅱ 茨城県民の郷土愛

### 1. 都県に対するイメージ

#### (1) 都県のイメージ

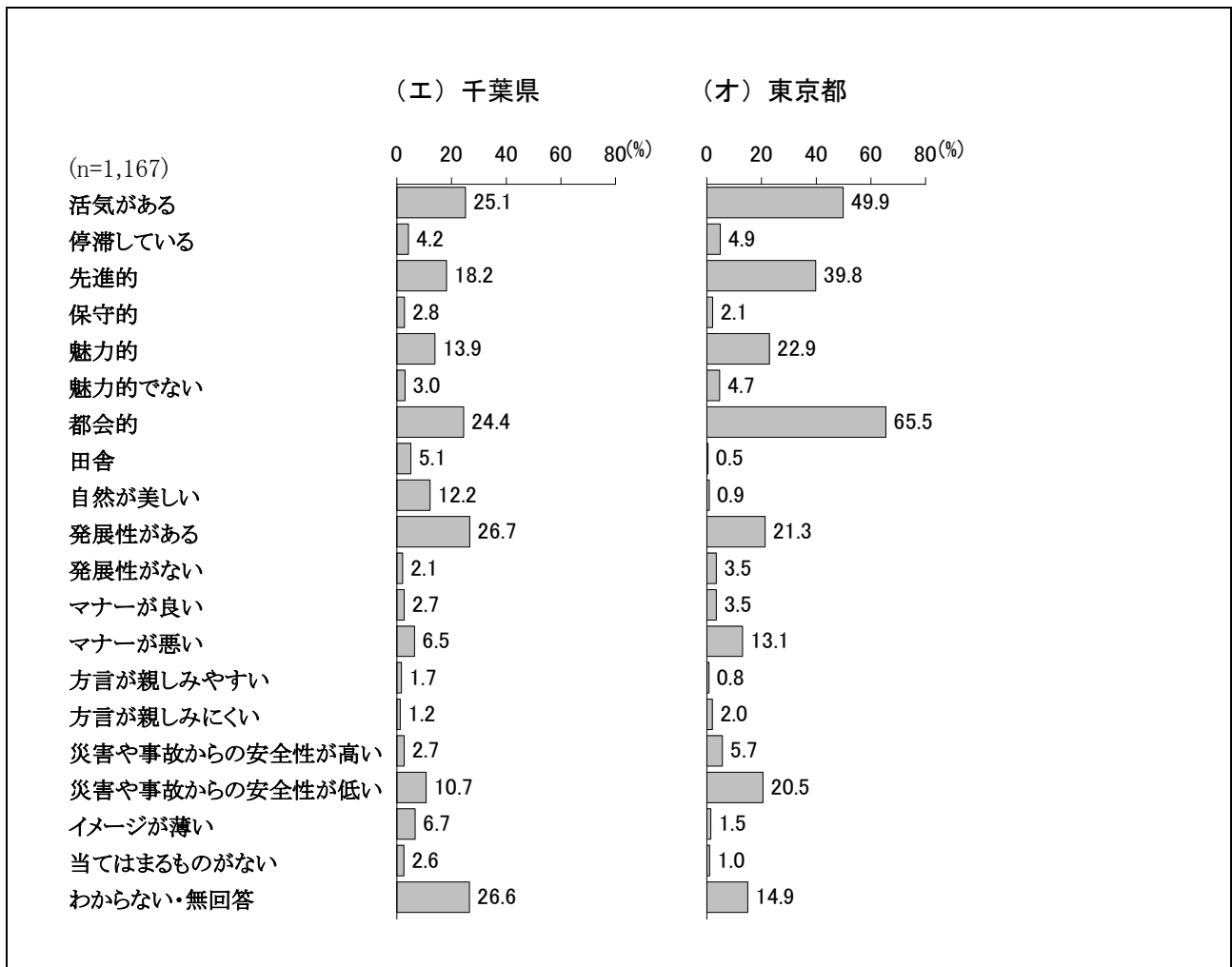
—茨城県は「田舎」が5割台半ばで最も高い—



茨城県のイメージとしては、「田舎」(53.6%)が5割台半ばで最も高く、次いで「自然が美しい」(44.2%)、「保守的」(41.3%)が4割台で、「マナーが悪い」(38.4%)、「停滞している」(36.1%)が3割台が続いている。

栃木県のイメージとしては、「自然が美しい」(44.7%)が4割台半ばで最も高く、次いで「田舎」(36.2%)が3割台半ば、「保守的」(16.7%)、「停滞している」(13.5%)、「イメージが薄い」(13.2%)、「方言が親しみやすい」(11.4%)が1割台が続いている。

群馬県のイメージとしては、「自然が美しい」(35.7%)が3割台半ばで最も高く、次いで「田舎」(31.4%)が3割を超え、「イメージが薄い」(20.8%)が約2割、「保守的」(13.5%)、「停滞している」(12.5%)が1割台が続いている。



千葉県のイメージとしては、「発展性がある」(26.7%)、「活気がある」(25.1%)、「都会的」(24.4%)が2割台半ばで高く、次いで「先進的」(18.2%)、「魅力的」(13.9%)、「自然が美しい」(12.2%)、「災害や事故からの安全性が低い」(10.7%)が1割台で続いている。

東京都のイメージとしては、「都会的」(65.5%)が6割台半ばで最も高く、次いで「活気がある」(49.9%)が約5割、「先進的」(39.8%)が約4割、「魅力的」(22.9%)、「発展性がある」(21.3%)、「災害や事故からの安全性が低い」(20.5%)が2割を超えて続いている。

### 【(ア) 茨城県】

#### — 「田舎」は女性の20代で7割台半ばと最も高い—

地域別でみると、「田舎」は、県西(60.7%)で約6割と最も高くなっている。また、「自然が美しい」、「保守的」、「マナーが悪い」、「停滞している」はいずれも県央で最も高く、鹿行や県西で低くなっている。

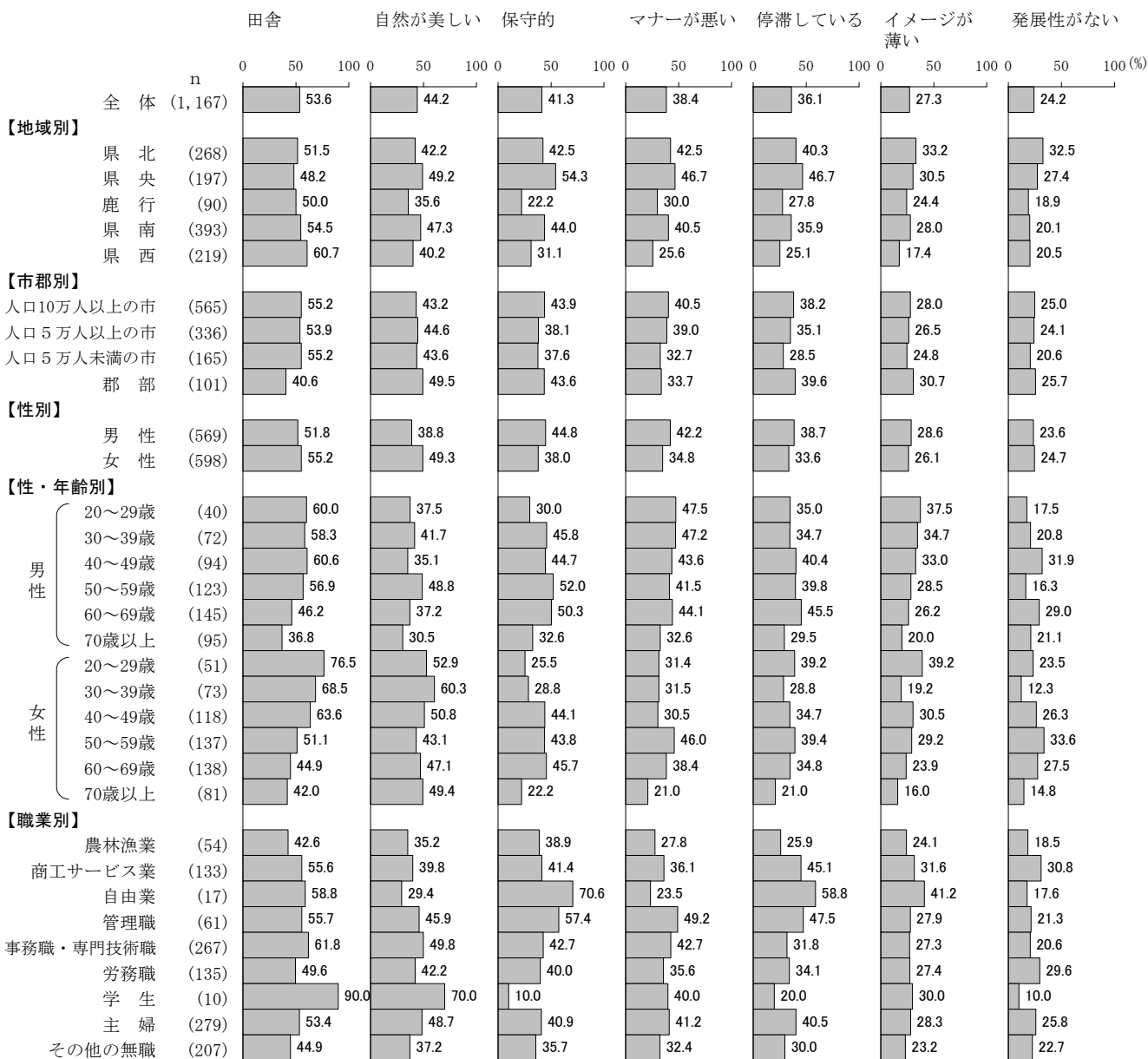
市郡別でみると、「田舎」は、郡部(40.6%)で約4割と特に低く、それ以外の層では5割台半ばとなっている。一方、「自然が美しい」、「停滞している」、「イメージが薄い」、「発展性がない」は郡部で最も高くなっている。「保守的」は人口10万人以上の市(43.9%)と郡部(43.6%)で4割台半ばと高く、「マナーが悪い」は人口が多くなるほど高い傾向にある。

性別でみると、「自然が美しい」は、女性（49.3%）が男性（38.8%）よりも約11ポイント高くなっている。逆に、「保守的」と「マナーが悪い」は約7ポイント、「停滞している」は5ポイント男性の方が高くなっている。

性・年齢別でみると、「田舎」は、女性の20代（76.5%）で7割台半ばと最も高く、年齢が上がるほど低くなっている。「自然が美しい」は、女性の30代（60.3%）で約6割、「保守的」は男性の50代（52.0%）と60代（50.3%）で5割を超えている。また、「マナーが悪い」は、男性の20代（47.5%）と30代（47.2%）、及び女性の50代（46.0%）で4割台半ばを超えて高く、「停滞している」は、男性の60代（45.5%）で最も高くなっている。「イメージが薄い」は、男女とも20代で3割台半ばを超えて高くなっている。

職業別でみると、「田舎」は、事務職・専門技術職（61.8%）で6割を超えており、「自然が美しい」は、事務職・専門技術職（49.8%）で最も高くなっている。また、「保守的」は管理職（57.4%）で約6割、「マナーが悪い」、「停滞している」も管理職で約5割と最も高くなっている。

図Ⅱ 1-1 都県に対するイメージ（ア）茨城県  
（地域別，市郡別，性別，性・年齢別，職業別—上位7項目）



(注) 自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

## 【(イ) 栃木県】

### —「自然が美しい」は、女性の20代と30代、男性の50代で5割超—

地域別でみると、「自然が美しい」は、県央（50.3%）と県西（51.1%）で5割を超えて高くなっている。一方、鹿行（23.3%）は2割台半ばと低く、同地域は「田舎」、「保守的」、「停滞している」においても最も低くなっている。また、「イメージが薄い」は、県央（19.3%）で約2割と高くなっている。

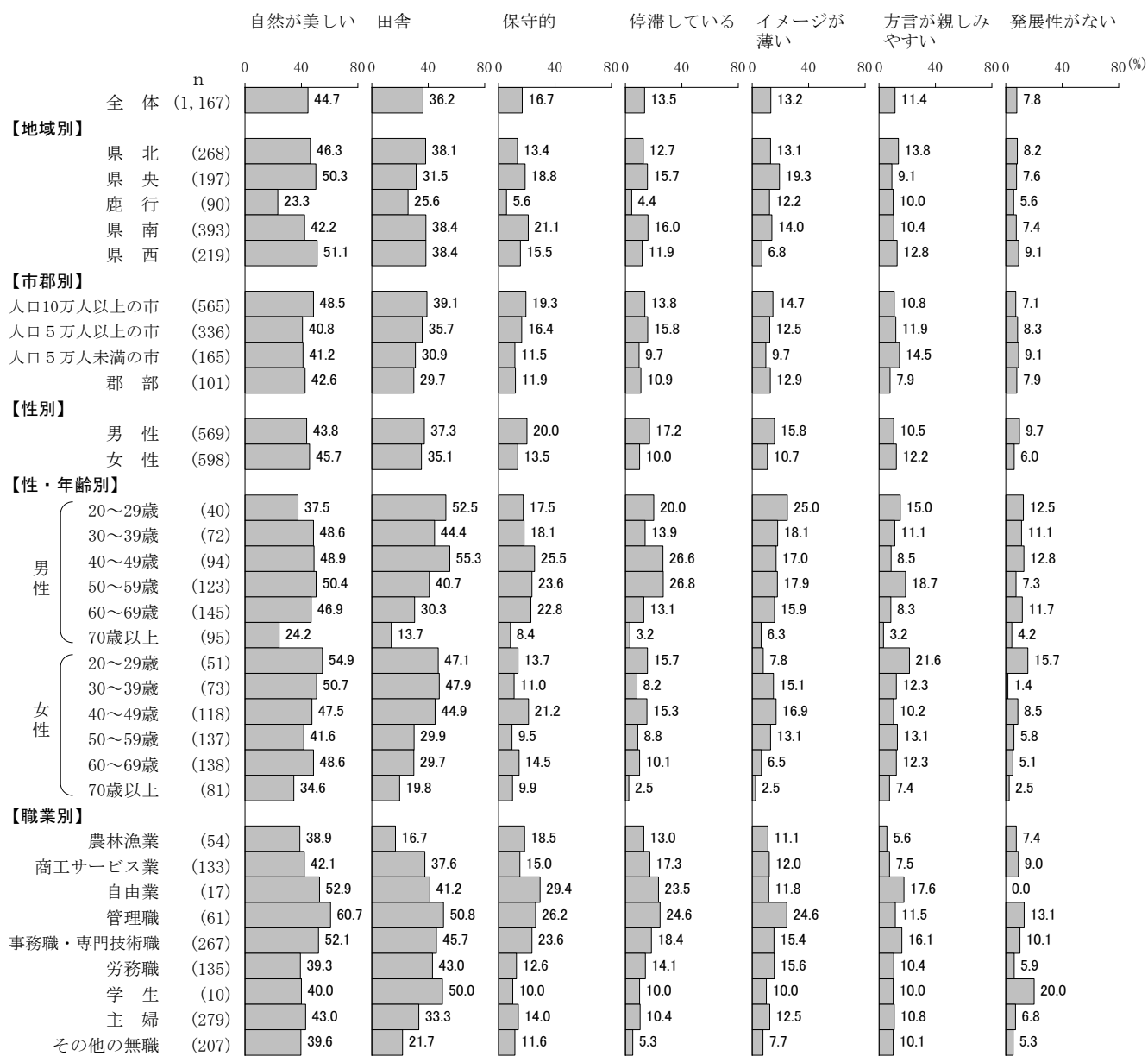
市郡別でみると、「自然が美しい」、「田舎」、「保守的」、「イメージが薄い」は、いずれも人口10万人以上の市で最も高くなっている。

性別でみると、「保守的」と「停滞している」で約7ポイント、「イメージが薄い」で約4ポイント、いずれも男性が女性よりも高くなっている。

性・年齢別でみると、「自然が美しい」は、女性の20代（54.9%）と30代（50.7%）、男性の50代（50.4%）で5割を超えて高くなっている。また、「田舎」は、男性の20代（52.5%）と40代（55.3%）で5割台、「保守的」は、男性の40代（25.5%）、50代（23.6%）、60代（22.8%）、女性の40代（21.2%）で2割台、「停滞している」は、男性の40代（26.6%）と50代（26.8%）で2割台半ば、「イメージが薄い」は、男性の20代（25.0%）で2割台半ばとそれぞれ高くなっている。

職業別でみると、「自然が美しい」、「田舎」、「保守的」、「停滞している」、「イメージが薄い」、「発展性がない」は、いずれも管理職で最も高くなっている。

図Ⅱ 1-2 都県に対するイメージ (イ) 栃木県  
(地域別, 市郡別, 性別, 性・年齢別, 職業別—上位7項目)



(注) 自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

## 【(ウ) 群馬県】

### —「自然が美しい」は、男性の50代と60代、女性の20代と60代で4割前後—

地域別でみると、「自然が美しい」は県央（39.6%）と県西（41.1%）で4割前後と高くなっている。一方、「自然が美しい」をはじめ、「田舎」、「イメージが薄い」、「保守的」、「停滞している」、「魅力的でない」、「発展性がない」は、鹿行において最も低くなっている。

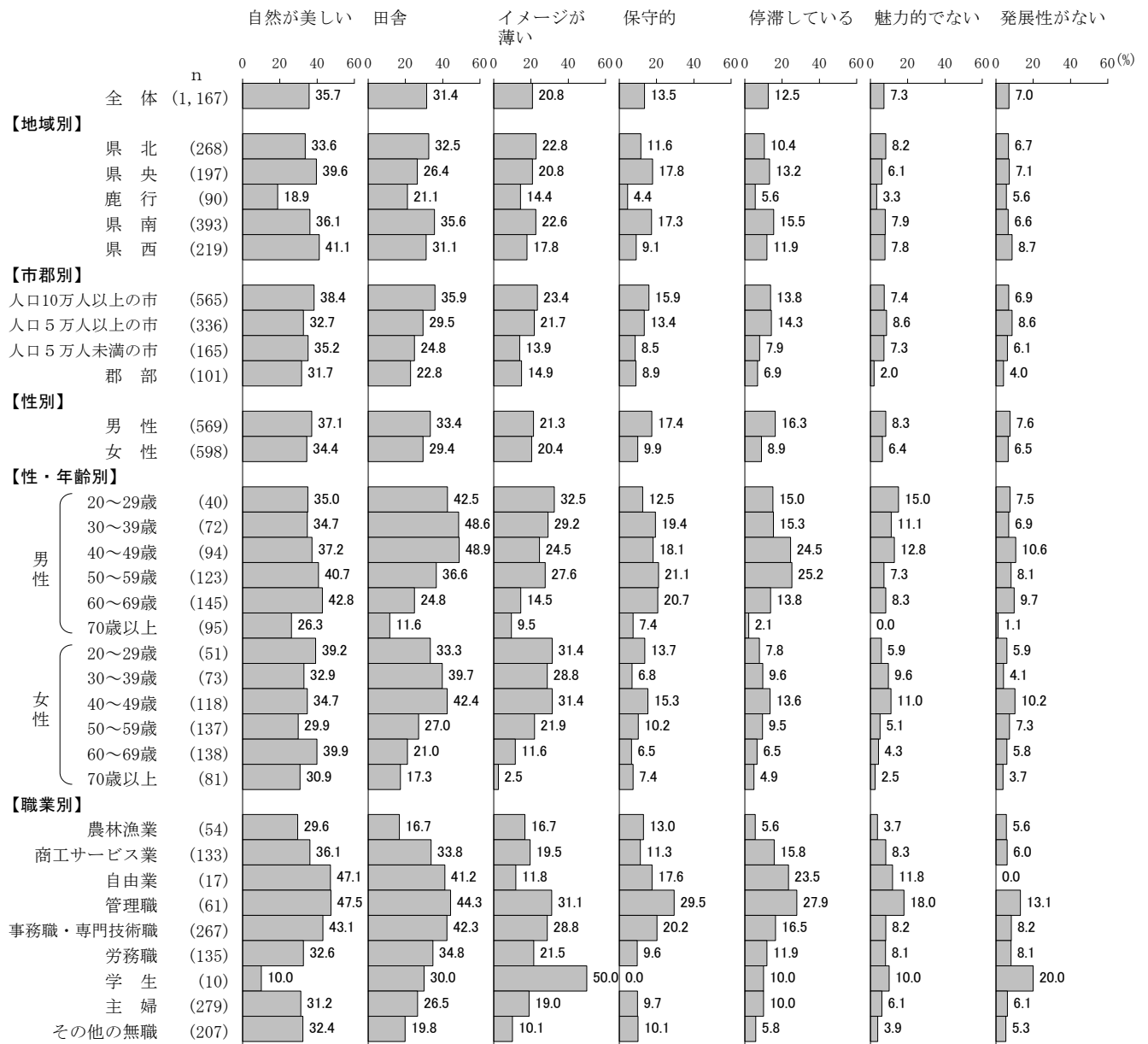
市郡別でみると、「自然が美しい」は、すべての層で3割台で、中でも人口10万人以上の市（38.4%）では約4割と高くなっている。また、人口10万人以上の市は、「田舎」、「イメージが薄い」、「保守的」においても最も高くなっている。

性別でみると、「保守的」は、男性（17.4%）が女性（9.9%）よりも約8ポイント、「停滞している」でも男性（16.3%）が女性（8.9%）よりも約7ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「自然が美しい」は、男性の50代（40.7%）、60代（42.8%）、女性の20代（39.2%）、60代（39.9%）で4割前後と高くなっている。また、「田舎」は、男女とも30代と40代で高く、「停滞している」は、男性の40代（24.5%）と50代（25.2%）で2割台半ばと高くなっている。

職業別でみると、すべての項目が管理職で最も高くなっている。

図Ⅱ 1-3 都県に対するイメージ (ウ) 群馬県  
(地域別, 市郡別, 性別, 性・年齢別, 職業別—上位7項目)



(注) 自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

## 【(エ) 千葉県】

### —「発展性がある」は、女性の40代で約4割—

地域別でみると、「発展性がある」は、県北（27.6%）、県央（27.4%）、県南（29.8%）で約3割と高くなっている。また、「活気がある」は、県南（30.8%）で約3割、「都会的」は、県央（28.4%）、県西（31.1%）で3割前後、「先進的」は、県央（24.9%）で2割台半ばとそれぞれ高くなっている。

市郡別でみると、「発展性がある」は、人口10万人以上の市（29.6%）と郡部（31.7%）で3割前後と高くなっている。また、「活気がある」と「都会的」は、すべての層で2割台となっている。

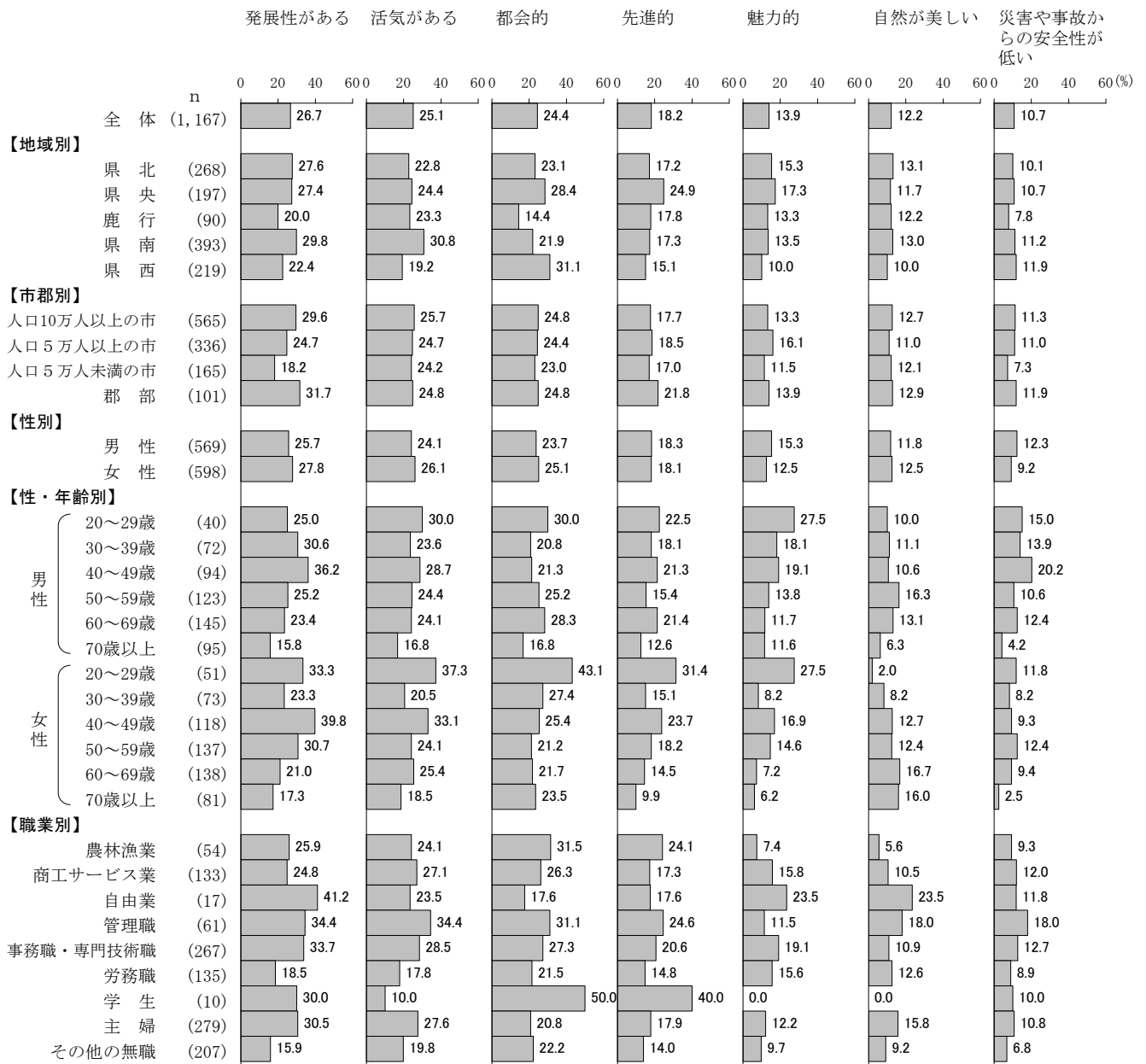
性別では、特に大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「発展性がある」は、女性の40代（39.8%）で約4割と高くなっている。また、「活気がある」、「都会的」、「先進的」、「魅力的」は男女とも20代で高くなっている。

職業別でみると、「発展性がある」は、管理職（34.4%）と事務職・専門技術職（33.7%）で3割台半ばと高くなっている。また、「活気がある」は、管理職（34.4%）で3割台半ば、「都会的」は、農林漁業（31.5%）と管理職（31.1%）で3割を超えて、それぞれ高くなっている。「先進的」、「自然が美しい」、「災害や事故からの安全性が低い」は、いずれも管理職で最も高くなっている。



図Ⅱ 1-4 都県に対するイメージ (エ) 千葉県  
(地域別, 市郡別, 性別, 性・年齢別, 職業別—上位7項目)



(注) 自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

## 【(オ) 東京都】

### —「都会的」は、男性の20代と40代、女性の20代から40代で7割台—

地域別でみると、「都会的」は、県南(70.2%)で約7割と最も高く、県北(66.4%)、県央(64.0%)、県西(64.8%)でも6割台半ばとなっている。また、「活気がある」、「魅力的」、「発展性がある」、「災害や事故からの安全性が低い」は、いずれも県央で最も高くなっている。

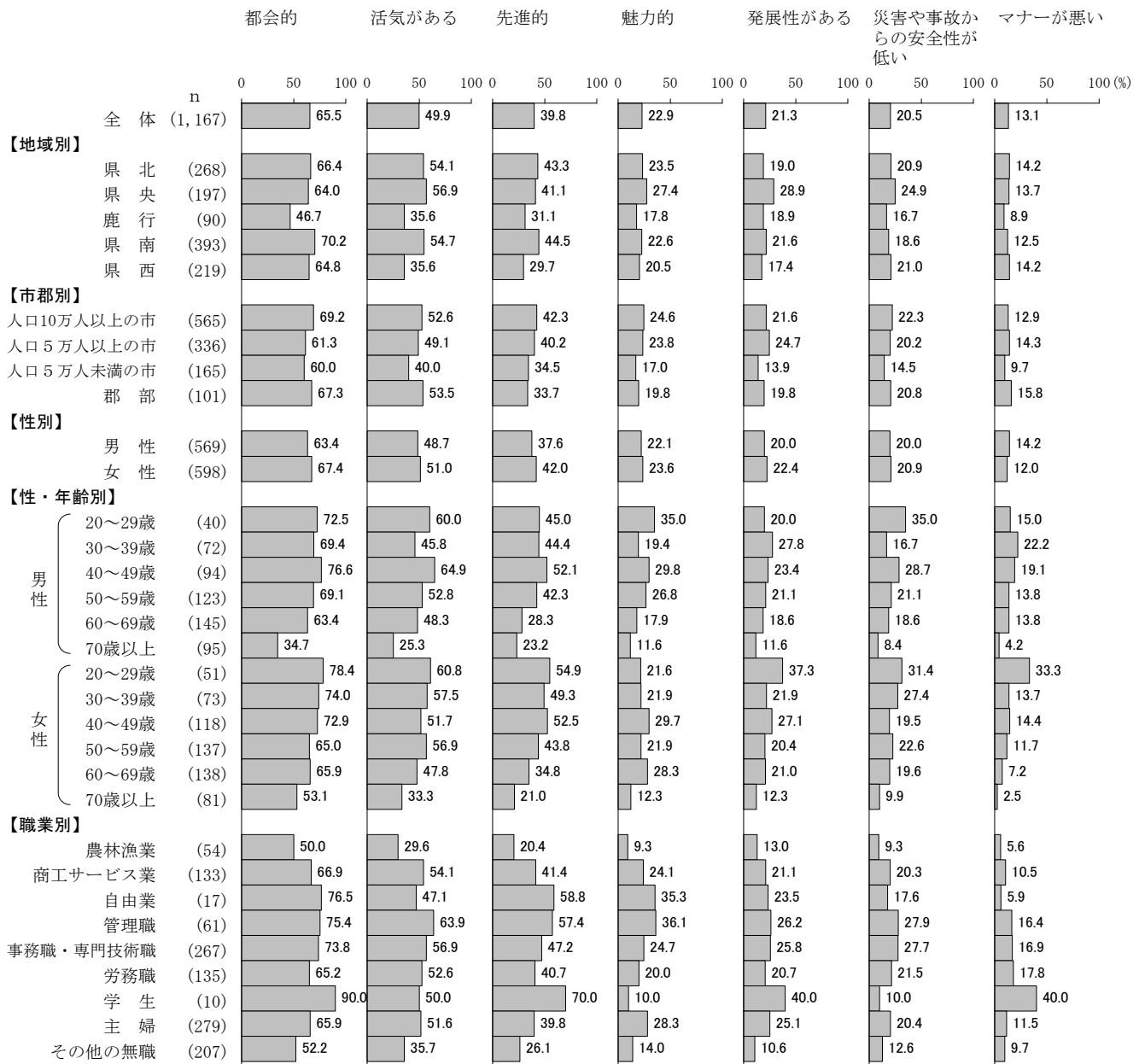
市郡別でみると、「都会的」は、人口10万人以上の市(69.2%)、郡部(67.3%)で約7割と高くなっている。また、「活気がある」は、人口10万人以上の市(52.6%)、郡部(53.5%)で5割を超えている。「先進的」、「魅力的」、「発展性がある」は、いずれも人口10万人以上の市と人口5万人以上の市で高くなっている。

性別では、特に大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「都会的」は、男性の20代(72.5%)、40代(76.6%)、女性の20代(78.4%)、30代(74.0%)、40代(72.9%)で7割台と高くなっている。また、「活気がある」は、男性の20代(60.0%)、40代(64.9%)、女性の20代(60.8%)で6割を超えて高く、「先進的」は、男性の40代(52.1%)、女性の20代(54.9%)、40代(52.5%)で5割台と高くなっている。

職業別でみると、「都会的」は、管理職(75.4%)と事務職・専門技術職(73.8%)で7割台半ばと高くなっている。また、「活気がある」、「先進的」、「魅力的」、「発展性がある」、「災害や事故からの安全性が低い」は、いずれも管理職で最も高くなっている。

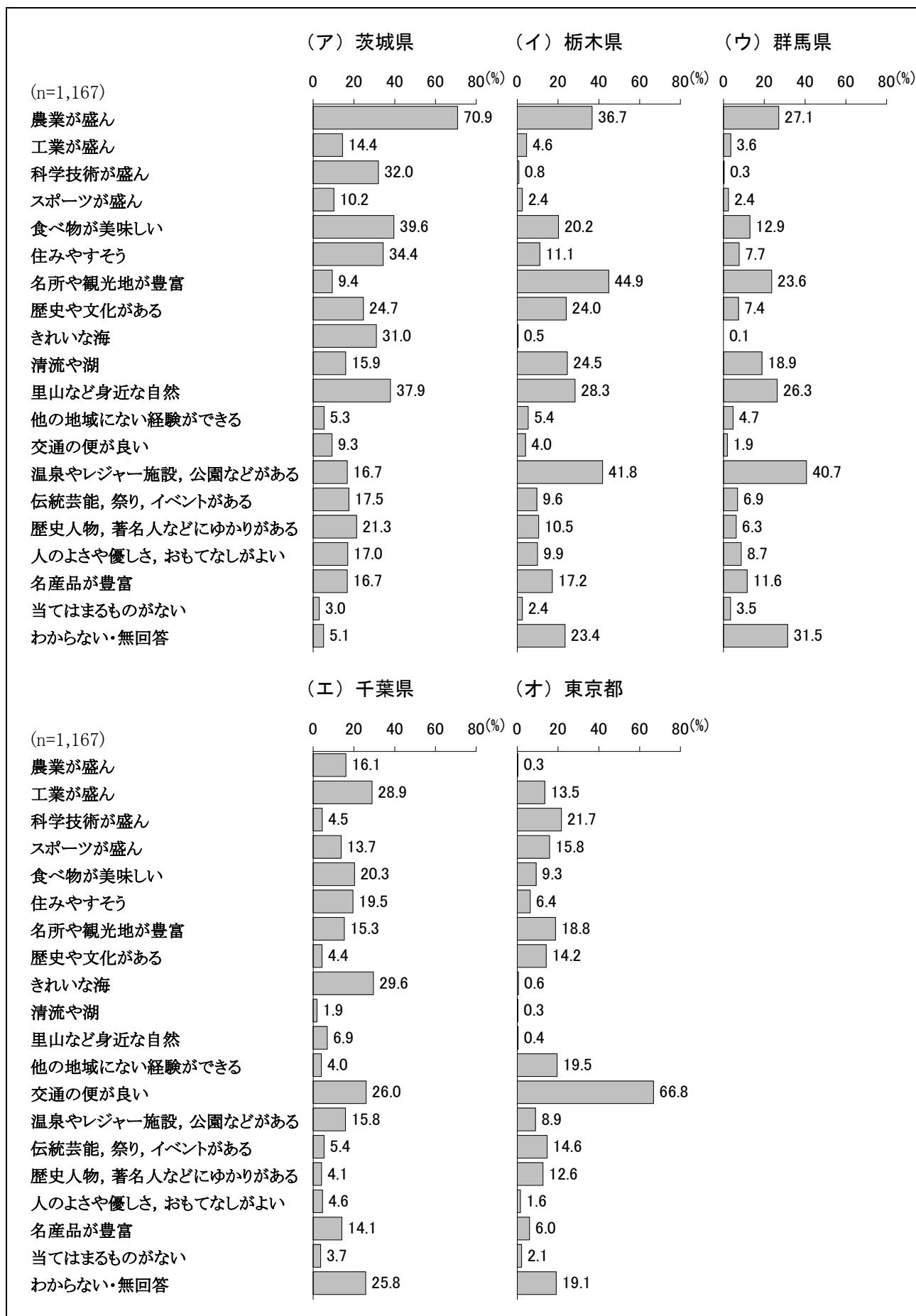
図Ⅱ 1-5 都県に対するイメージ (オ) 東京都  
(地域別, 市郡別, 性別, 性・年齢別, 職業別—上位7項目)



(注) 自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

(2) 都県の資源に対するイメージ

—「農業が盛ん」が約7割—



茨城県の資源に対するイメージとしては、「農業が盛ん」(70.9%)が約7割と最も高く、次いで、「食べ物が美味しい」(39.6%)、「里山など身近な自然」(37.9%)、「住みやすそう」(34.4%)、「科学技術が盛ん」(32.0%)、「きれいな海」(31.0%)が3割台で続いている。

栃木県の資源に対するイメージとしては、「名所や観光地が豊富」(44.9%)が4割台半ばで最も高く、次いで、「温泉やレジャー施設、公園などがある」(41.8%)が4割台、「農業が盛ん」(36.7%)が3割台半ば、「里山など身近な自然」(28.3%)、「清流や湖」(24.5%)、「歴史や文化がある」(24.0%)、「食べ物が美味しい」(20.2%)が2割台で続いている。

群馬県の資源に対するイメージとしては、「温泉やレジャー施設、公園などがある」(40.7%)が約4割と最も高く、次いで、「農業が盛ん」(27.1%)、「里山など身近な自然」(26.3%)、「名所や観光地が豊富」(23.6%)が2割台で続いている。

千葉県の資源に対するイメージとしては、「きれいな海」(29.6%)、「工業が盛ん」が約3割で高く、次いで、「交通の便が良い」(26.0%)、「食べ物が美味しい」(20.3%)が2割台で続いている。

東京都の資源に対するイメージとしては、「交通の便が良い」(66.8%)が6割台半ばで最も高く、次いで、「科学技術が盛ん」(21.7%)が2割台で続いている。

#### 【(ア) 茨城県】

—「農業が盛ん」は、男女とも20代で約8割、男性の30代から60代、女性の30代と50代で4割台半ば—  
地域別でみると、「農業が盛ん」は、県央(75.1%)と県南(75.3%)で7割台半ばと高くなっている。また、「食べ物が美味しい」、「住みやすそう」、「歴史や文化がある」は、いずれも県央で最も高くなっている。「里山など身近な自然」は、県北(46.6%)と県央(45.7%)で、「きれいな海」は、県北(42.5%)でそれぞれ最も高くなっている。

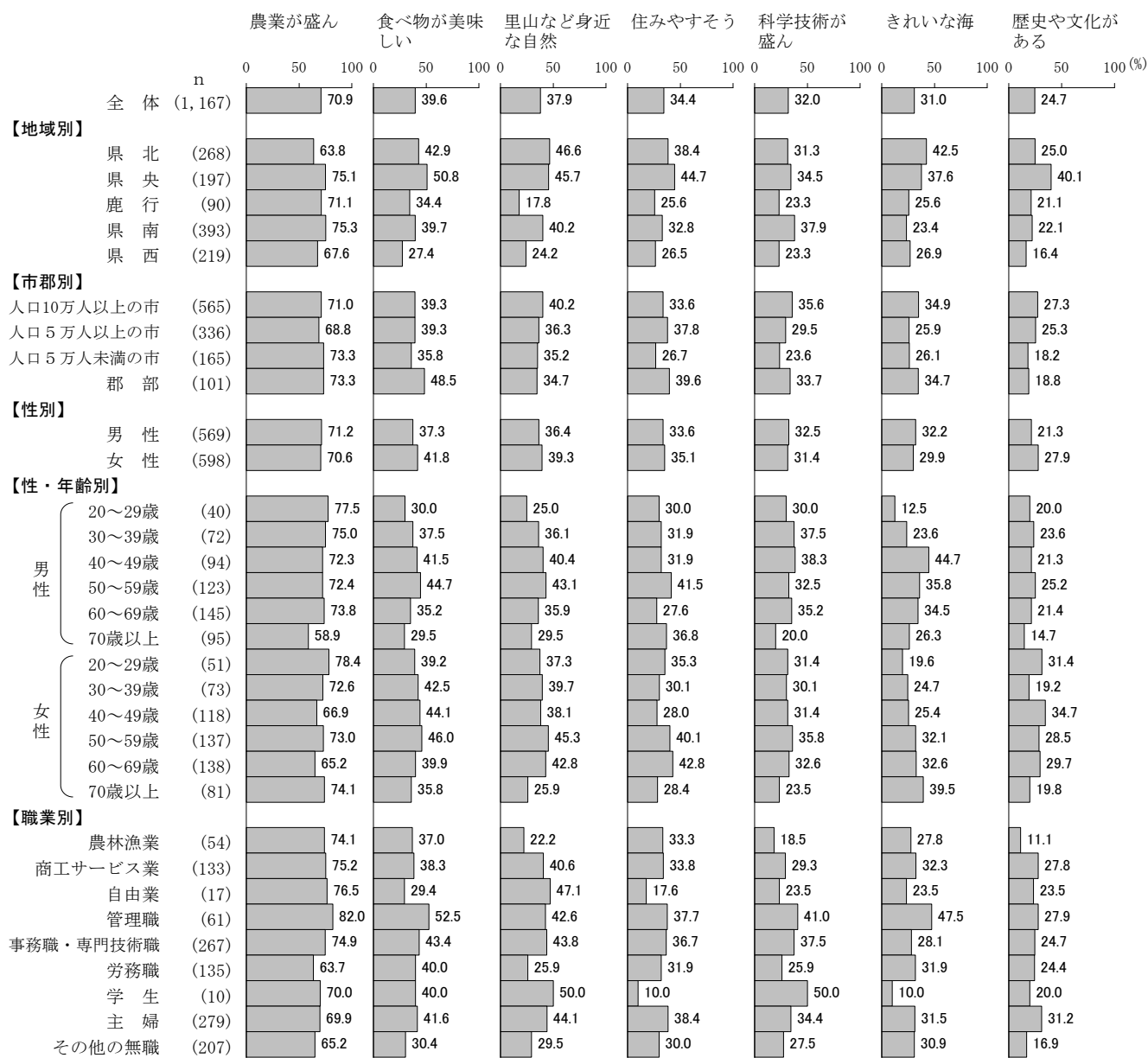
市郡別でみると、「農業が盛ん」は、人口5万人以上の市(68.8%)で唯一7割未満となっている。また、「食べ物が美味しい」は、郡部(48.5%)で約5割と高く、「里山など身近な自然」は、人口10万人以上の市(40.2%)で約4割と高くなっている。

性別でみると、「食べ物が美味しい」は、女性(41.8%)が男性(37.3%)よりも約5ポイント高く、「歴史や文化がある」でも、女性(27.9%)が男性(21.3%)よりも約7ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「農業が盛ん」は、男女とも20代が約8割と高く、男性の30代(75.0%)、40代(72.3%)、50代(72.4%)、60代(73.8%)、及び女性の30代(72.6%)と50代(73.0%)も7割台となっている。また、「食べ物が美味しい」は、男性の50代(44.7%)、女性の40代(44.1%)と50代(46.0%)で4割台半ばと高くなっている。「里山など身近な自然」と「住みやすそう」は、男性では50代、女性では50代と60代でそれぞれ高くなっている。

職業別でみると、「農業が盛ん」は、管理職(82.0%)で8割を超えて最も高く、また、管理職は「食べ物が美味しい」、「科学技術が盛ん」、「きれいな海」においても最も高くなっている。「里山など身近な自然」、「住みやすそう」、「歴史や文化がある」は、主婦で高くなっている。

図Ⅱ 1-6 都県の資源に対するイメージ (ア) 茨城県  
(地域別, 市郡別, 性別, 性・年齢別, 職業別—上位7項目)



(注) 自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

## 【(イ) 栃木県】

### —「名所や観光地が豊富」は、男性の50代で約6割、男性の40代と60代で5割超—

地域別でみると、「名所や観光地が豊富」は、県北（51.9%）と県央（51.8%）で5割を超えて高くなっている。また、「温泉やレジャー施設、公園などがある」は、県西（48.9%）で約5割、「農業が盛ん」は、鹿行（24.4%）以外の地域で3割台半ばを超えている。

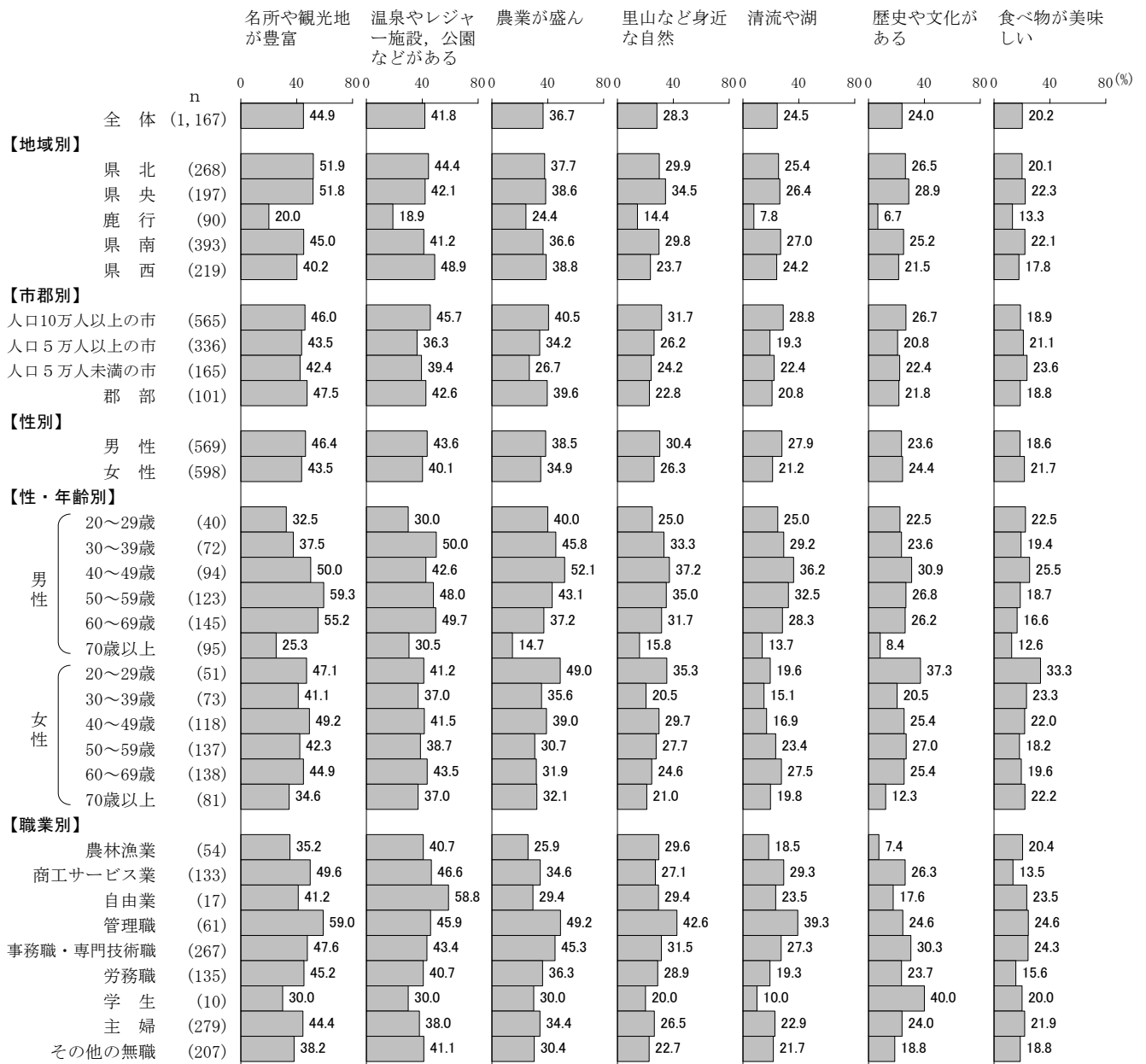
市郡別でみると、「名所や観光地が豊富」は、すべての層で4割台となっている。また、「温泉やレジャー施設、公園などがある」は、人口10万人以上の市（45.7%）と郡部（42.6%）で4割を超え、「農業が盛ん」は、人口10万人以上の市（40.5%）と郡部（39.6%）で4割前後となっている。

性別でみると「清流や湖」は、男性（27.9%）が女性（21.2%）よりも約7ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「名所や観光地が豊富」は、男性の50代（59.3%）で約6割と最も高く、男性の40代（50.0%）と60代（55.2%）で5割を超えている。また、「温泉やレジャー施設、公園などがある」は、男性の30代（50.0%）、50代（48.0%）、60代（49.7%）で5割前後と高くなっている。「農業が盛ん」は男性の40代（52.1%）で5割を超え、女性の20代（49.0%）で約5割となっている。

職業別でみると、「名所や観光地が豊富」は、管理職（59.0%）で約6割と最も高くなっている。また、管理職は「農業が盛ん」、「里山など身近な自然」、「清流や湖」においても最も高くなっている。「温泉やレジャー施設、公園などがある」は、商工サービス業（46.6%）と管理職（45.9%）で4割台半ばと高くなっている。

図Ⅱ 1-7 都県の資源に対するイメージ (イ) 栃木県  
(地域別, 市郡別, 性別, 性・年齢別, 職業別—上位7項目)



(注) 自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。



## 【(ウ) 群馬県】

### —「温泉やレジャー施設、公園などがある」は、男性の60代で5割台半ば—

地域別でみると、「温泉やレジャー施設、公園などがある」は、県南（43.5%）と県西（46.6%）で4割台半ばと最も高く、県北（41.8%）と県央（39.1%）で4割前後となっている。「農業が盛ん」は、県北（28.4%）、県央（29.4%）、県南（28.2%）で約3割と高くなっている。「里山など身近な自然」は、県北（28.7%）、県央（28.9%）、県南（30.3%）で3割前後となっている。

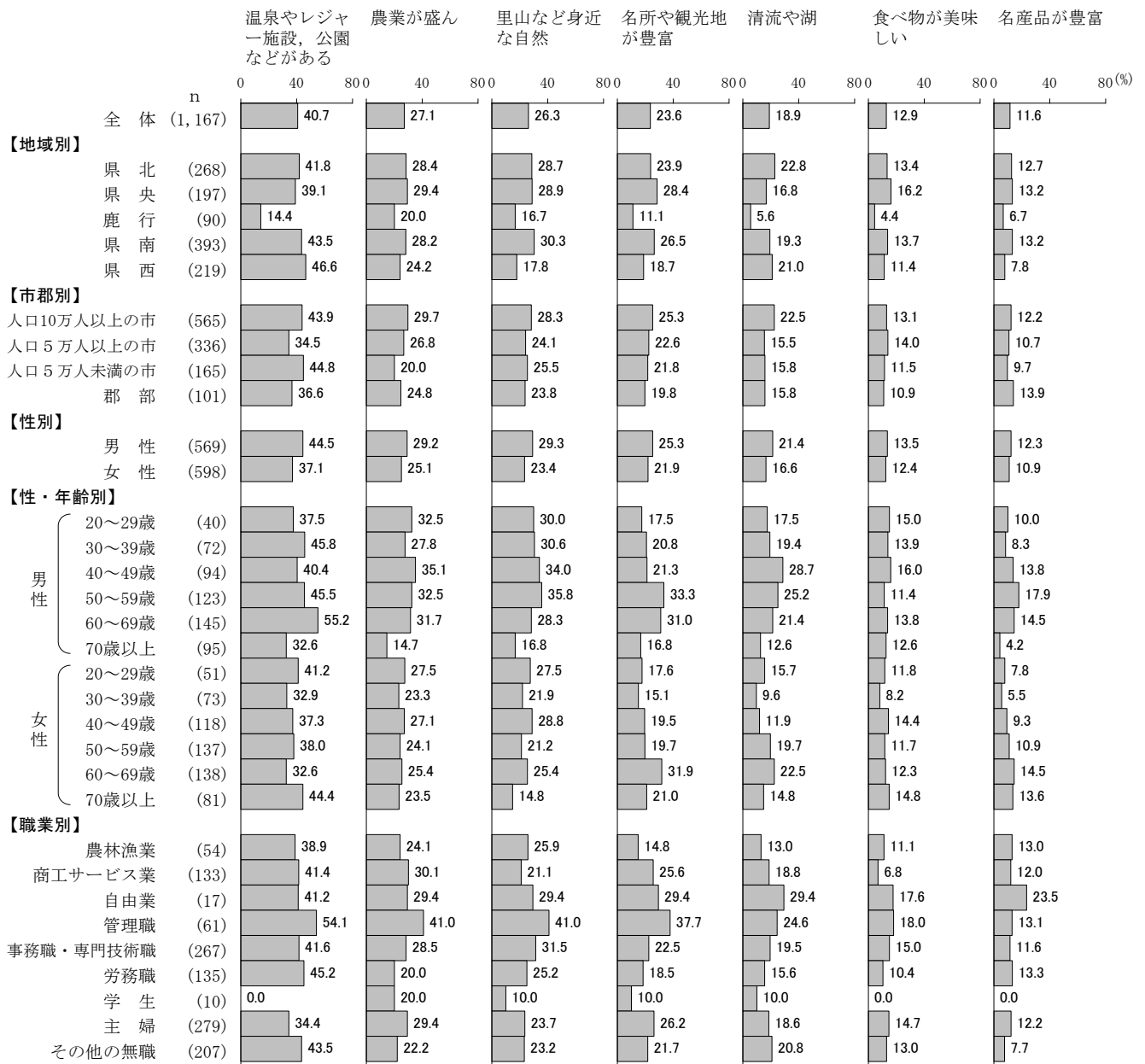
市郡別でみると、「温泉やレジャー施設、公園などがある」は、人口10万人以上の市（43.9%）と人口5万人未満の市（44.8%）で4割台半ばと高くなっている。また、「農業が盛ん」と「里山など身近な自然」は、いずれも人口10万人以上の市で最も高くなっている。

性別でみると、「温泉やレジャー施設、公園などがある」は、男性（44.5%）が女性（37.1%）よりも約7ポイント高く、「里山など身近な自然」でも男性（29.3%）が女性（23.4%）を約6ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「温泉やレジャー施設、公園などがある」は、男性の60代（55.2%）で5割台半ばと最も高く、男性の30代（45.8%）と50代（45.5%）、女性の70歳以上（44.4%）で4割台半ばとなっている。また、「農業が盛ん」は、男性の20代（32.5%）、40代（35.1%）、50代（32.5%）、60代（31.7%）で3割を超えて高くなっている。「里山など身近な自然」は、男性の20代（30.0%）、30代（30.6%）、40代（34.0%）、50代（35.8%）で3割台と高く、男女とも70歳以上は1割台と低くなっている。

職業別でみると、「温泉やレジャー施設、公園などがある」は、管理職（54.1%）で5割台半ばと最も高く、労務職（45.2%）で4割台半ばとなっている。また、「農業が盛ん」、「里山など身近な自然」、「名所や観光地が豊富」も、管理職で最も高くなっている。

図Ⅱ 1-8 都県の資源に対するイメージ (ウ) 群馬県  
(地域別, 市郡別, 性別, 性・年齢別, 職業別—上位7項目)



(注) 自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

## 【(エ) 千葉県】

### —「きれいな海」は、男性の30代と60代で約4割、男性の20代で3割台半ば—

地域別でみると、「きれいな海」は、県南（34.4%）で3割台半ばと最も高く、県北（29.1%）と県西（30.1%）で3割前後となっている。また、「工業が盛ん」は、県央（32.5%）と県西（31.5%）で3割を超え、「交通の便が良い」は、すべての地域で2割台となっている。

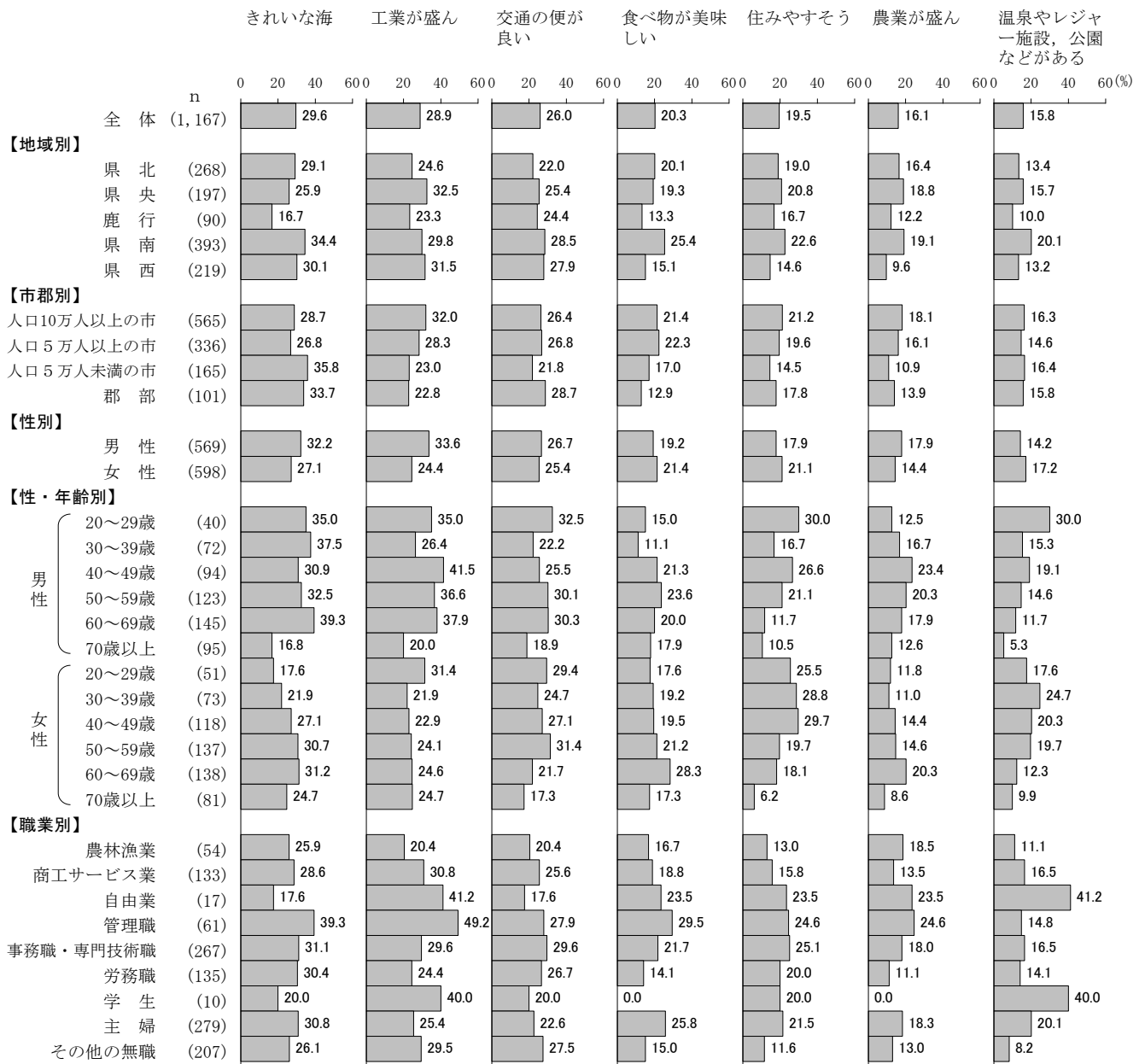
市郡別でみると、「きれいな海」は、人口5万人未満の市（35.8%）と郡部（33.7%）で3割台半ばと高く、「工業が盛ん」は、人口10万人以上の市（32.0%）で3割を超えている。また、「交通の便が良い」は、人口5万人未満の市（21.8%）がそれ以外の層に比べて低くなっている。

性別でみると、「工業が盛ん」は、男性（33.6%）が女性（24.4%）よりも約9ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「きれいな海」は、男性の30代（37.5%）と60代（39.5%）で約4割と高く、20代（35.0%）で3割台半ばとなっている。また、「工業が盛ん」は、男性の40代（41.5%）で唯一4割を超え、男性の60代（37.9%）でも約4割と高くなっている。「交通の便が良い」は、男性の20代（32.5%）、50代（30.1%）60代（30.3%）及び女性の50代（31.4%）で3割を超えている。

職業別でみると、「きれいな海」は、管理職（39.3%）で約4割と最も高くなっている。また、「工業が盛ん」でも管理職（49.2%）が約5割で最も高くなっている。「交通の便が良い」は、すべての職業で2割台となっている。

図Ⅱ 1-9 都県の資源に対するイメージ (エ) 千葉県  
(地域別, 市郡別, 性別, 性・年齢別, 職業別—上位7項目)



(注) 自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

## 【(オ) 東京都】

—「交通の便が良い」は、女性の40代で約8割、男女の50代及び女性の20代で7割台半ば—

地域別でみると、「交通の便が良い」は、県南（72.8%）で7割を超えて最も高く、県央（67.5%）と県西（68.9%）で約7割となっている。また、「科学技術が盛ん」や「名所や観光地が豊富」は、いずれも県央で最も高くなっている。

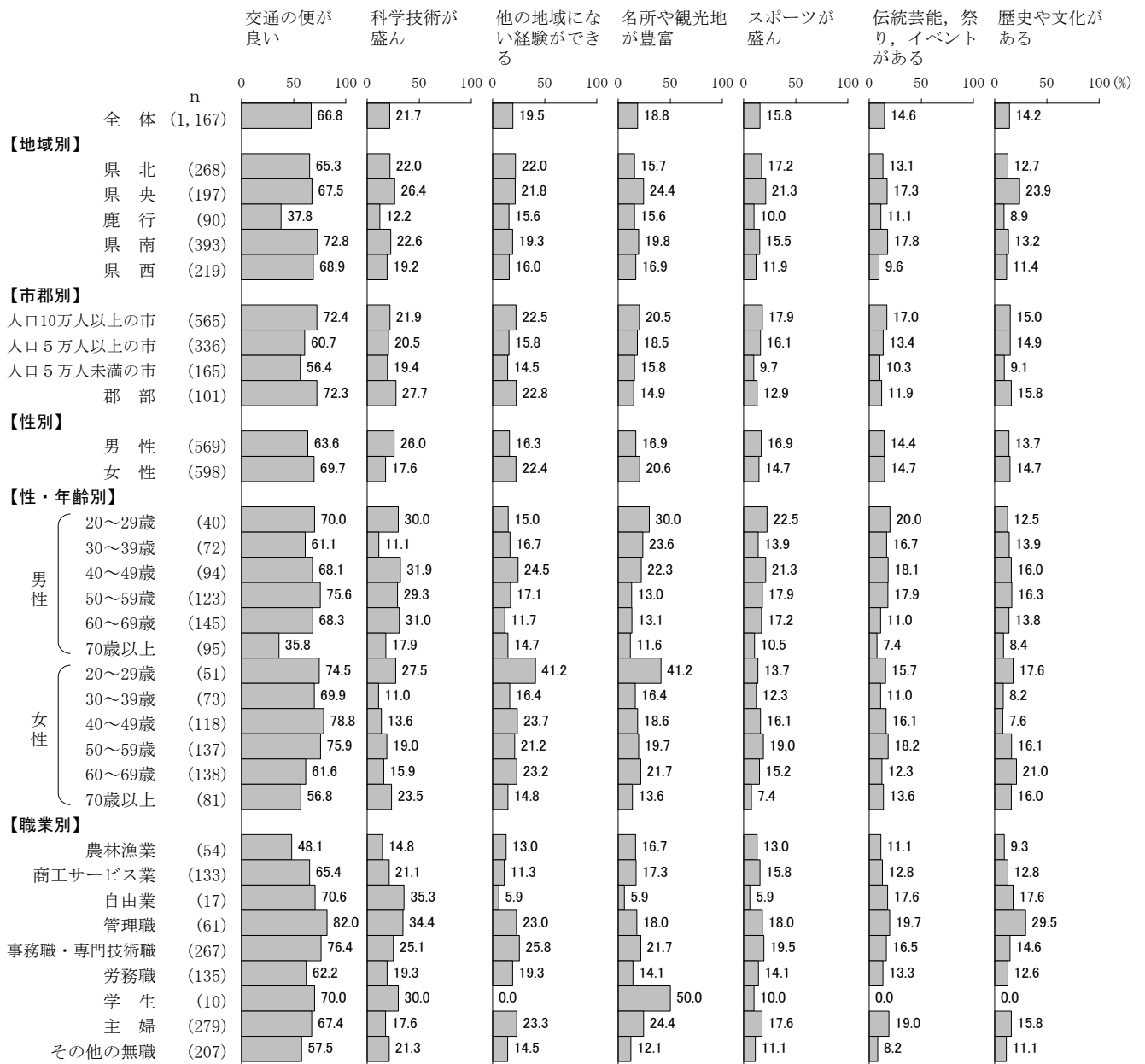
市郡別でみると、「交通の便が良い」は、人口10万人以上の市（72.4%）と郡部（72.3%）で7割を超えて高くなっている。また、「科学技術が盛ん」は、郡部（27.7%）で約3割と最も高くなっている。「他の地域にない経験ができる」は、人口10万人以上の市（22.5%）と郡部（22.8%）で2割を超えている。

性別でみると、「交通の便が良い」は、女性（69.7%）が男性（63.6%）よりも約6ポイント高く、「科学技術が盛ん」は、男性（26.0%）が女性（17.6%）よりも約8ポイント高くなっている。また、「他の地域にない経験ができる」は、女性（22.4%）が男性（16.3）よりも約6ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「交通の便が良い」は、女性の40代（78.8%）で約8割と最も高く、男性の50代（75.6%）及び女性の20代（74.5%）、50代（75.9%）で7割台半ばとなっている。また、「科学技術が盛ん」は、男性の20代（30.0%）、40代（31.9%）、50代（29.3%）、60代（31.0%）で3割前後となっている。「他の地域にない経験ができる」と「名所や観光地が豊富」は、いずれも女性の20代で4割を超えて特に高くなっている。

職業別でみると、「交通の便が良い」は、管理職（82.0%）で8割を超えて最も高く、事務職・専門技術職（76.4%）で7割台半ばとなっている。また、「科学技術が盛ん」は、管理職（34.4%）で3割台半ばと最も高く、「他の地域にない経験ができる」は、事務職・専門技術職（25.8%）で2割台半ばと最も高くなっている。

図Ⅱ 1-10 都県の資源に対するイメージ (オ) 東京都  
(地域別, 市郡別, 性別, 性・年齢別, 職業別—上位8項目)

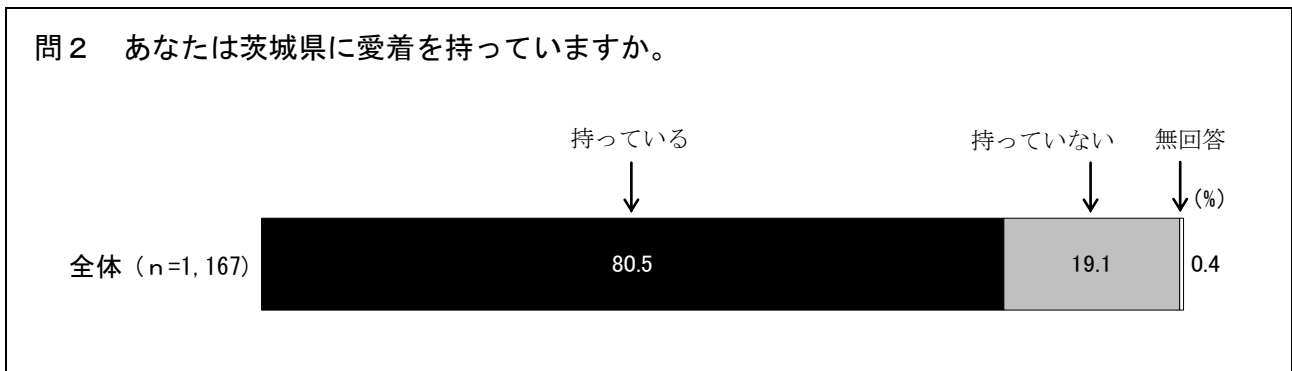


(注) 自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

## 2. 茨城県に対する愛着

(1) 茨城県に愛着を持っているか

—愛着を「持っている」は約8割—



茨城県に対して、愛着を「持っている」(80.5%)は約8割を占めている。一方、「持っていない」(19.1%)は約2割となっている。

—「持っている」は女性の70歳以上で9割超—

地域別でみると、「持っている」は、県央(86.8%)で8割台半ばと最も高く、県北(81.3%)、鹿行(78.9%)、県南(80.4%)で8割前後となっている。一方、県西(74.4%)は7割台半ばで最も低くなっている。

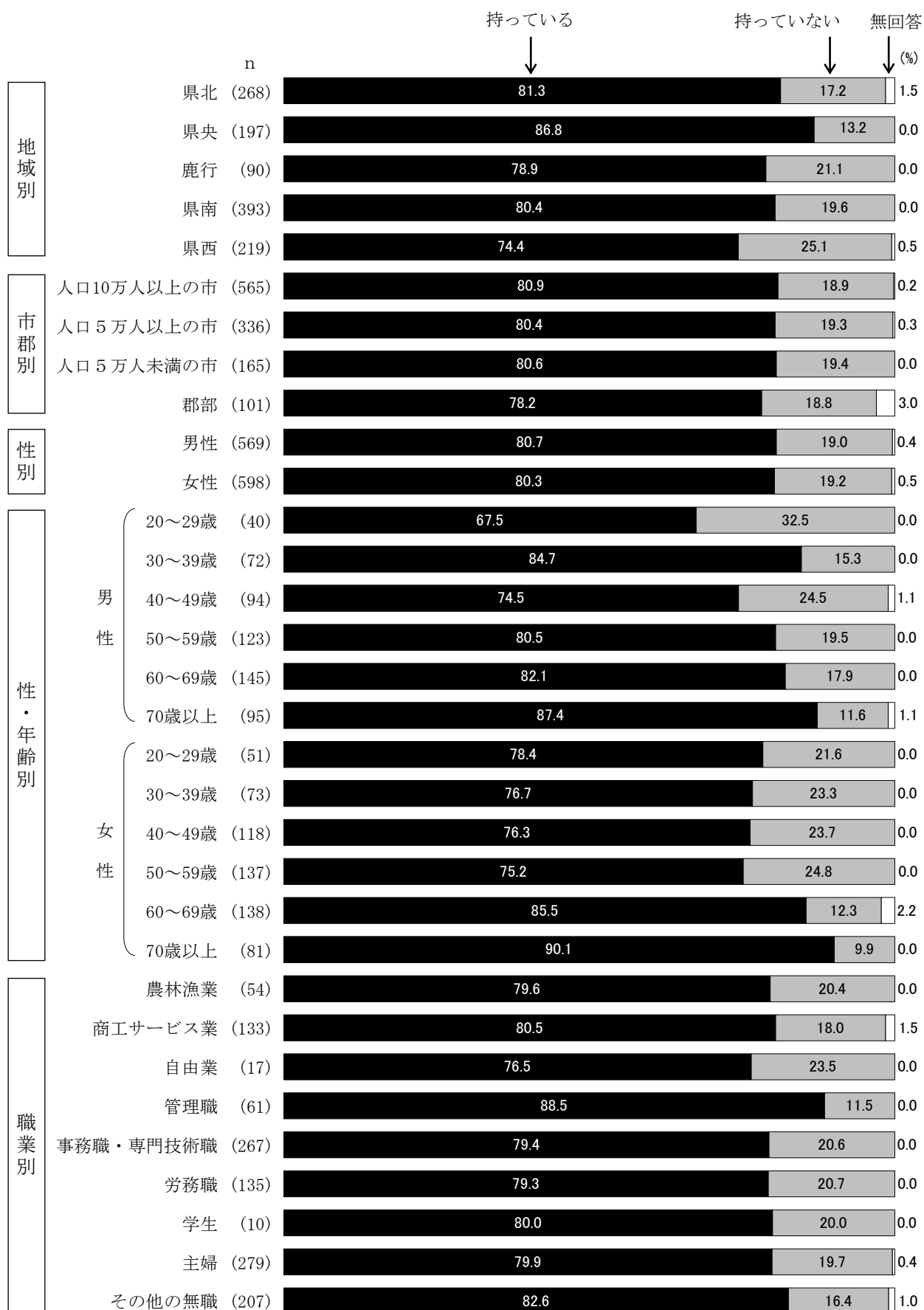
市郡別では、特に大きな差はみられない。

性別では、特に大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「持っている」は、女性の70歳以上(90.1%)で唯一9割を超えて高く、男性でも70歳以上(87.4%)が最も高くなっている。また、男性の30代(84.7%)と女性の60代(85.5%)が8割台半ばとなっている。

職業別でみると、「持っている」は、管理職(88.5%)で約9割と特に高く、それ以外の職業はいずれも8割前後となっている。

図 I 2-1 茨城県に愛着を持っているか  
(地域別, 市郡別, 性別, 性・年齢別, 職業別)



(注) 自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

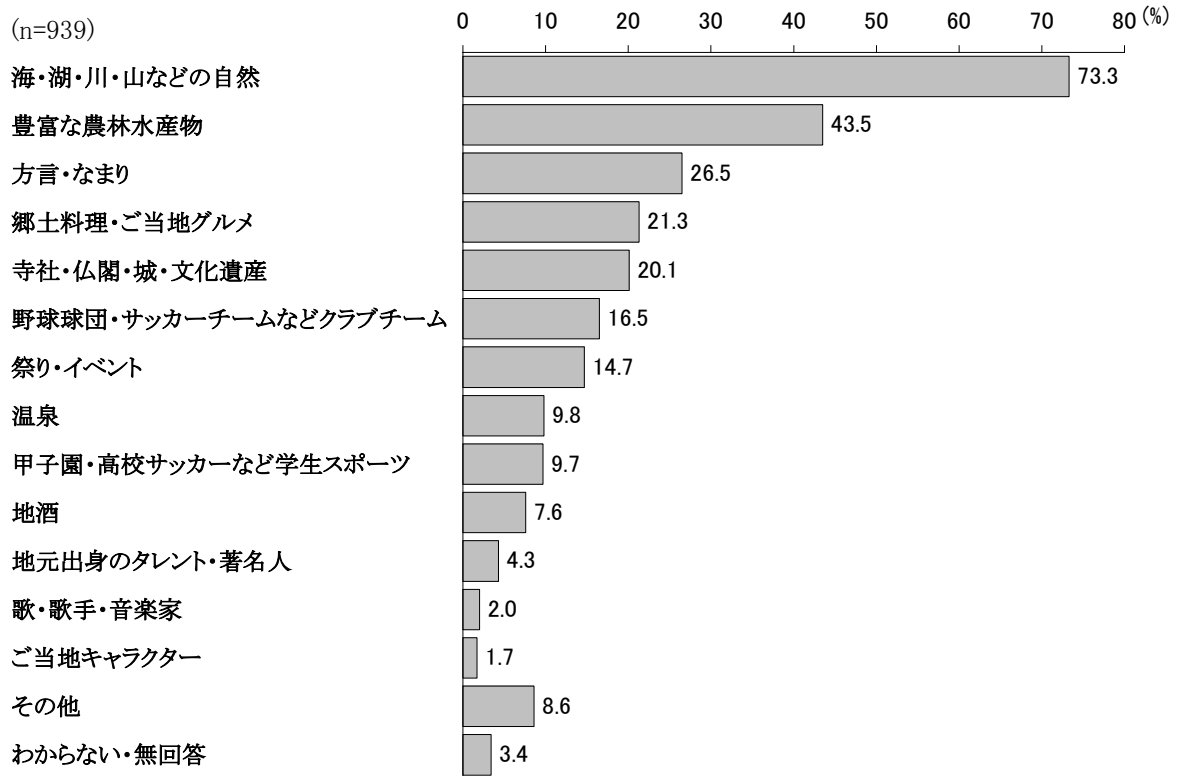


(2) 茨城県に愛着を感じるどころ

—「海・湖・川・山などの自然」が7割台半ば—

(問2で「持っている」と回答した方のみ)

問2-1 茨城県のどのようなところに愛着を感じますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。



茨城県に愛着を「持っている」と回答した方に、愛着を感じるどころを聞いたところ、「海・湖・川・山などの自然」(73.3%)が7割台半ばで最も高く、次いで「豊富な農林水産物」(43.5%)が4割台半ば、「方言・なまり」(26.5%)、「郷土料理・ご当地グルメ」(21.3%)、「寺社・仏閣・城・文化遺産」(20.1%)が2割台で、「野球球団・サッカーチームなどクラブチーム」(16.5%)、「祭り・イベント」(14.7%)が1割台で続いている。

### —「海・湖・川・山などの自然」は県央で8割を超える—

地域別でみると、「海・湖・川・山などの自然」は、県央（82.5%）で8割を超えて最も高く、県北（79.4%）が約8割となっている。また、「豊富な農林水産物」は、県北（49.5%）と県央（52.6%）で5割前後と高くなっている。「方言・なまり」は、県北（28.0%）、県央（32.2%）、県西（30.1%）で3割前後となっている。

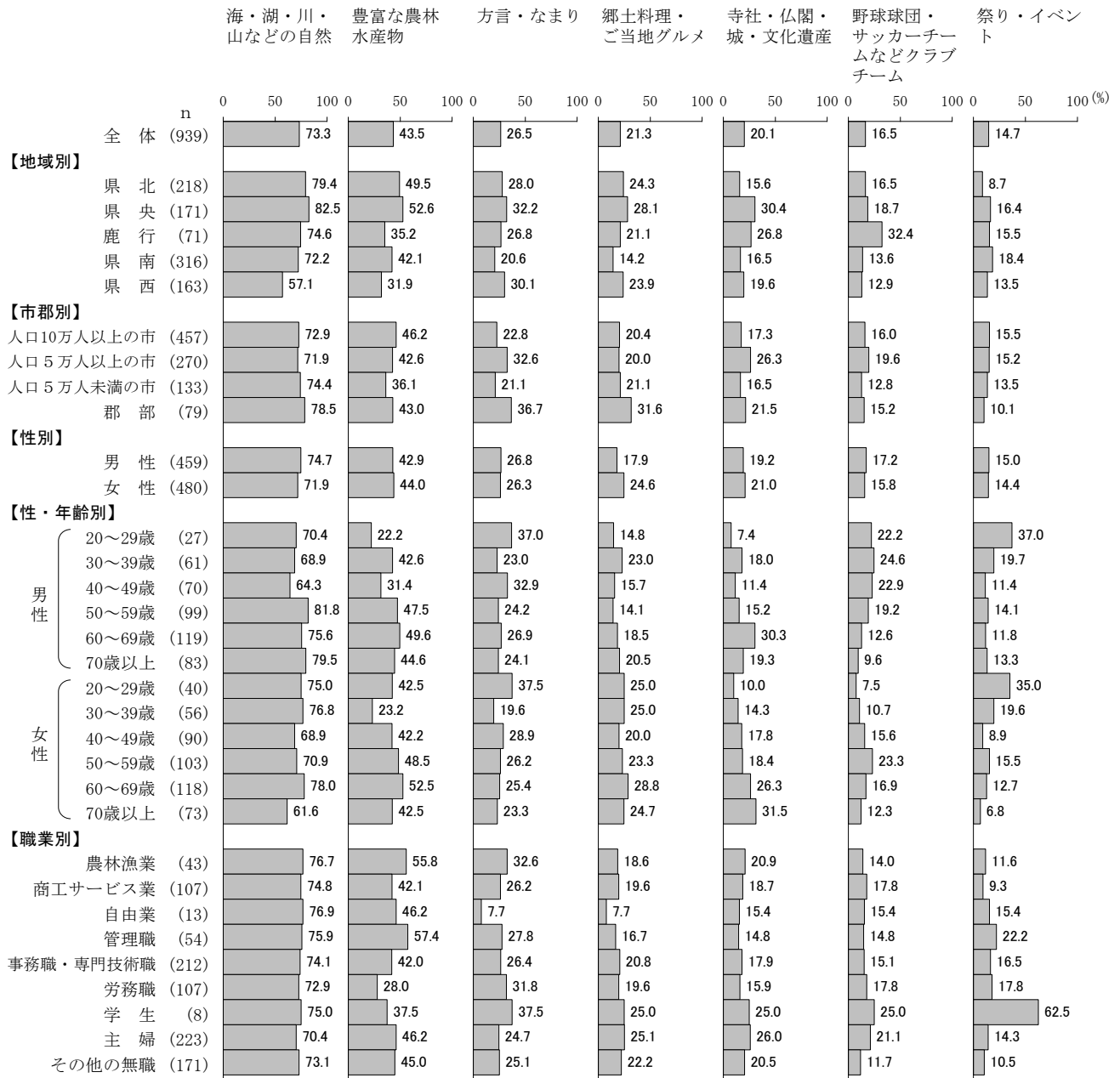
市郡別でみると、「海・湖・川・山などの自然」は、郡部（78.5%）で約8割と最も高いが、すべての層で7割台となっている。「豊富な農林水産物」は、人口5万人未満の市（36.1%）がそれ以外の層に比べて低くなっている。また、「方言・なまり」と「郷土料理・ご当地グルメ」は、いずれも郡部で3割台と高くなっている。

性別でみると、「郷土料理・ご当地グルメ」は、女性（24.6%）が男性（17.9%）よりも約7ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「海・湖・川・山などの自然」は、男性の50代（81.8%）で8割を超えて最も高く、男性の70歳以上（79.5%）と女性の60代（78.0%）で約8割となっている。また、「豊富な農林水産物」は、女性の60代（52.5%）で5割を超えて最も高く、男性の50代（47.5%）、60代（49.6%）や女性の50代（48.5%）で約5割となっている。「方言・なまり」は、女性の20代（37.5%）と男性の40代（32.9%）で3割台と高くなっている。

職業別でみると、「海・湖・川・山などの自然」は、すべての職業で7割台となっている。また、「豊富な農林水産物」は、農林漁業（55.8%）と管理職（57.4%）で5割台半ばを超えて高く、「方言・なまり」は、農林漁業（32.6%）と労務職（31.8%）で3割を超えている。

図Ⅱ 2-1-1 茨城県に愛着や誇りを感じるどころ  
(地域別, 市郡別, 性別, 性・年齢別, 職業別—上位7項目)

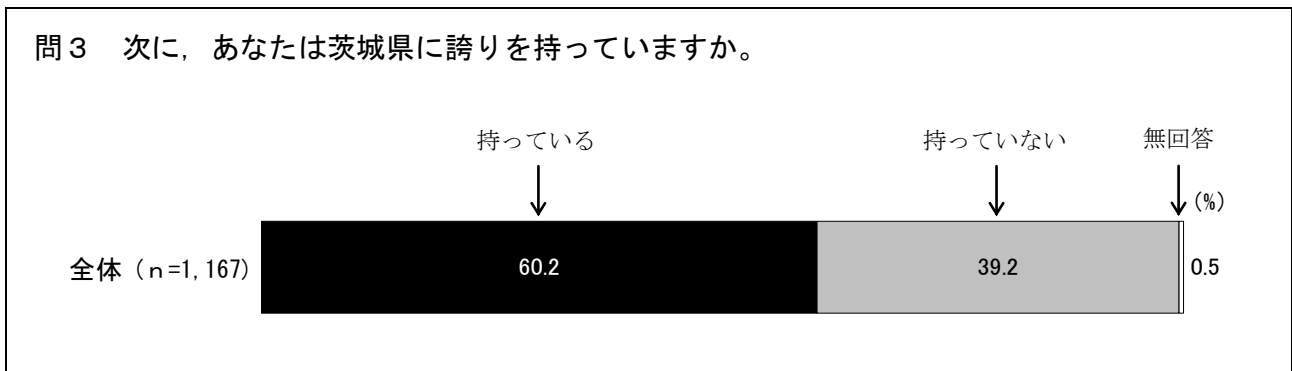


(注) 男性20～29歳, 自由業, 学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

### 3. 茨城県に対する誇り

(1) 茨城県に誇りを持っているか

—誇りを「持っている」は約6割—



茨城県に対して、誇りを「持っている」(60.2%)は約6割を占めている。一方、「持っていない」(39.2%)は約4割となっている。

—「持っている」は女性の70歳以上で8割を超える—

地域別でみると、「持っている」は、県央(68.0%)で約7割と最も高く、鹿行(64.4%)が6割台半ばで続いている。一方、県西(55.3%)は5割台半ばで最も低くなっている。

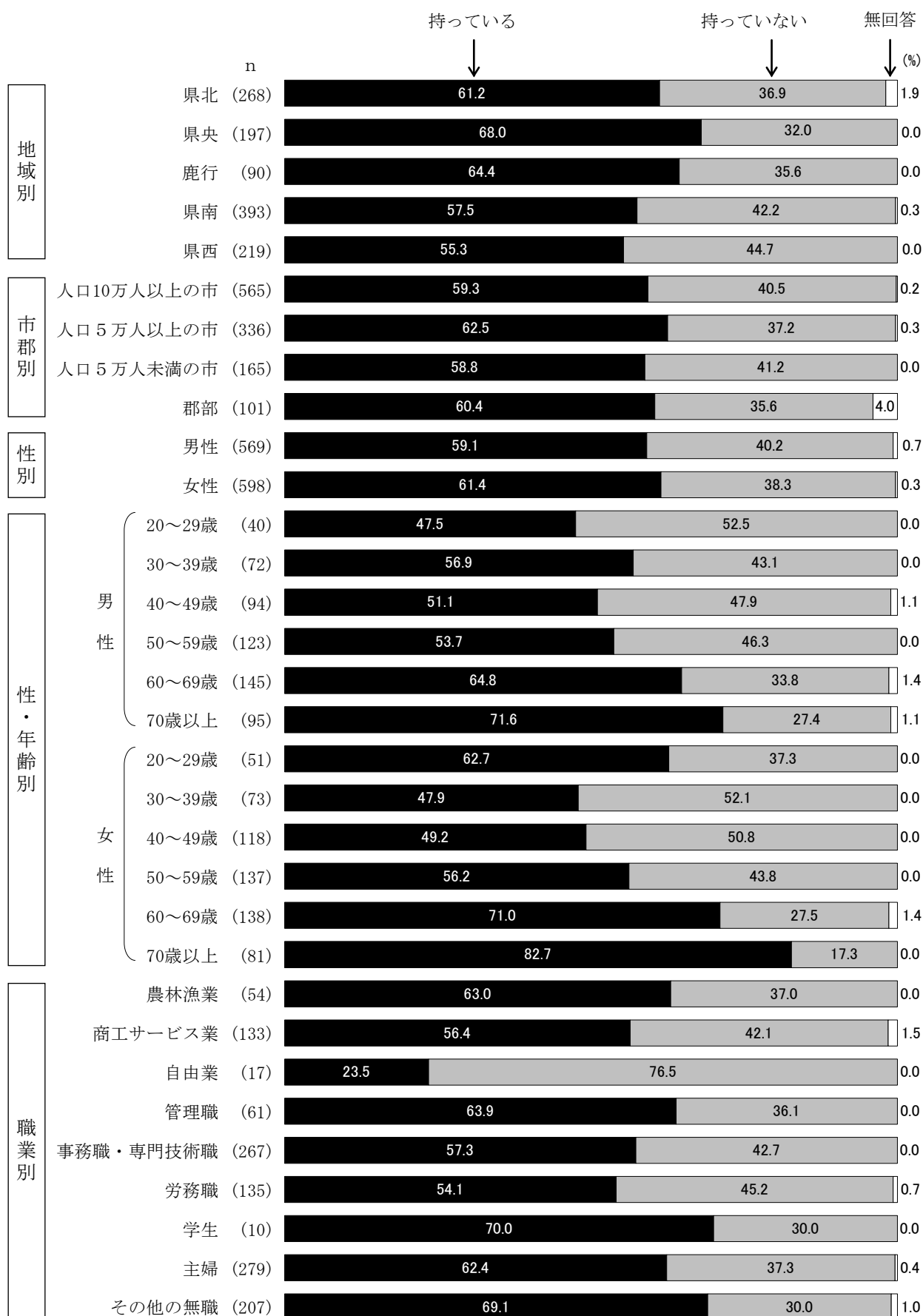
市郡別では、特に大きな差はみられない。

性別では、特に大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「持っている」は、女性の70歳以上(82.7%)で8割を超えて最も高く、男性の70歳以上(71.6%)と女性の60代(71.0%)が7割を超えている。一方、男性の20代(47.5%)、女性の30代(47.9%)と40代(49.2%)は4割台と低くなっている。

職業別でみると、「持っている」は、その他の無職(69.1%)で約7割と最も高く、農林漁業(63.0%)、管理職(63.9%)が6割台半ばとなっている。一方、労務職(54.1%)は5割台半ばで最も低くなっている。

図Ⅱ 3-2 茨城県に誇りを持っているか  
(地域別, 市郡別, 性別, 性・年齢別, 職業別)



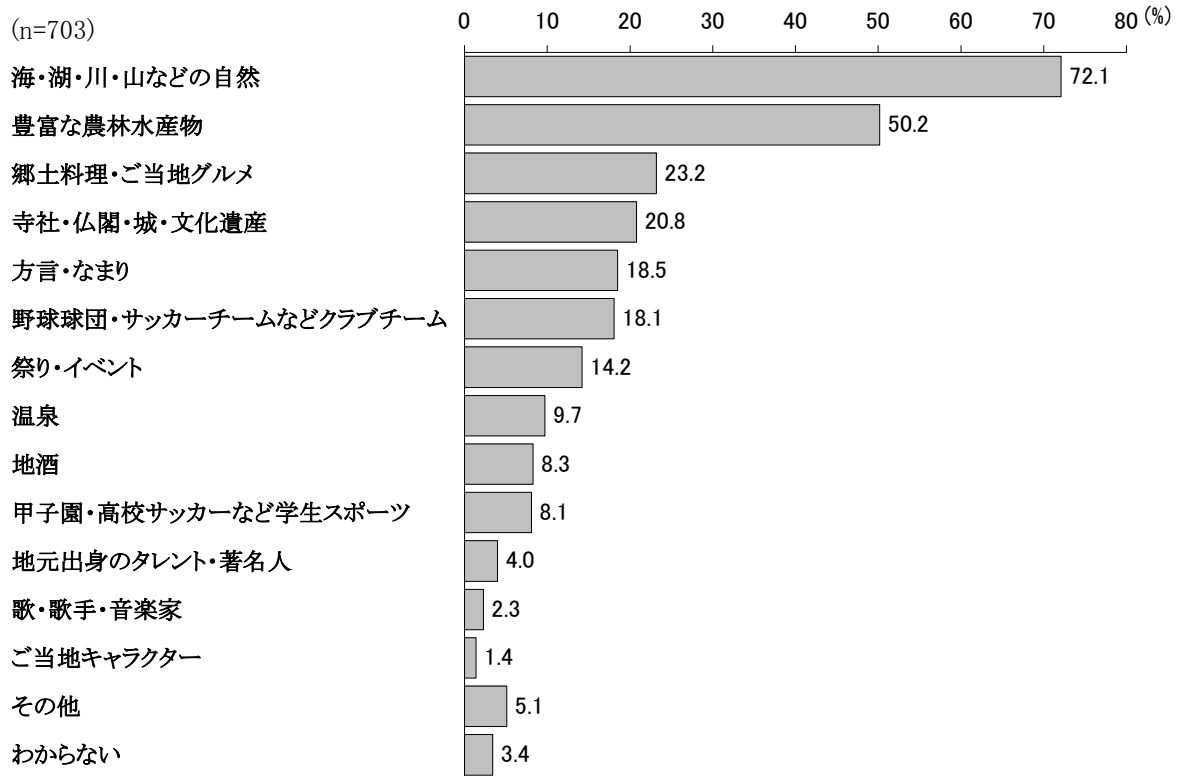
(注) 自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

(2) 茨城県に誇りを感じるどころ

—「海・湖・川・山などの自然」が7割を超える—

(問3で「持っている」と回答した方のみ)

問3-1 茨城県のどのようなところに誇りを感じますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。



茨城県に誇りを「持っている」と回答した方に、誇りを感じるどころを聞いたところ、「海・湖・川・山などの自然」(72.1%)が7割を超えて最も高く、次いで「豊富な農林水産物」(50.2%)が約5割、「郷土料理・ご当地グルメ」(23.2%)、「寺社・仏閣・城・文化遺産」(20.8%)が2割台で、「方言・なまり」(18.5%)、「野球球団・サッカーチームなどクラブチーム」(18.1%)、「祭り・イベント」(14.2%)が1割台が続いている。

### —「海・湖・川・山などの自然」は県北で約8割—

地域別でみると、「海・湖・川・山などの自然」は、県西（57.0%）以外のすべての地域で7割台となっており、特に県北（78.7%）で約8割と最も高くなっている。また、「豊富な農林水産物」は、県央（61.9%）で6割を超えて高く、「郷土料理・ご当地グルメ」は、鹿行（29.3%）と県西（32.2%）で3割前後となっている。「寺社・仏閣・城・文化遺産」は、県央（32.8%）で3割を超えて最も高くなっている。

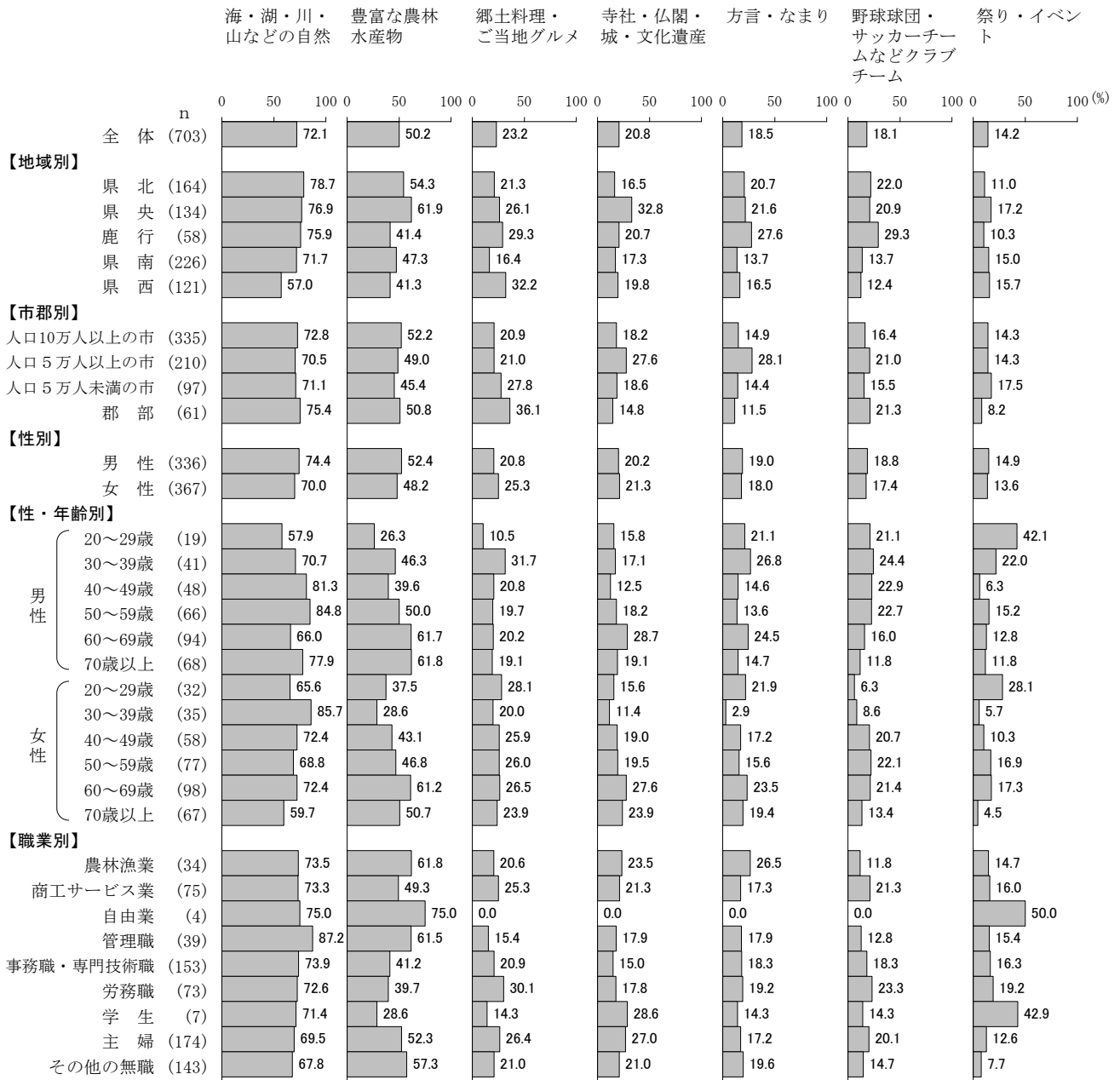
市郡別でみると、「海・湖・川・山などの自然」は、すべての層で7割台となっている。また、「郷土料理・ご当地グルメ」は、郡部（36.1%）で3割台半ばと高く、「寺社・仏閣・城・文化遺産」と「方言・なまり」は人口5万人以上の市で約3割と高くなっている。

性別では、特に大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「海・湖・川・山などの自然」は、男性の50代（84.8%）と女性の30代（85.7%）で8割台半ばと高く、男性の40代（81.3%）でも8割を超えている。また、「豊富な農林水産物」は、男性の60代（61.7%）と70歳以上（61.8%）、女性の60代（61.2%）で6割を超えている。「郷土料理・ご当地グルメ」は、男性の30代（31.7%）で3割を超え、「寺社・仏閣・城・文化遺産」は、男女とも60代で最も高くなっている。

職業別でみると、「海・湖・川・山などの自然」は、管理職（87.2%）で約9割と特に高くなっている。また、「豊富な農林水産物」は、農林漁業（61.8%）と管理職（61.5%）で6割を超えている。「郷土料理・ご当地グルメ」は、労務職（30.1%）で約3割となっている。

図Ⅱ 3-1-1 茨城県に誇りを感じるところ  
(地域別、市郡別、性別、性・年齢別、職業別—上位7項目)



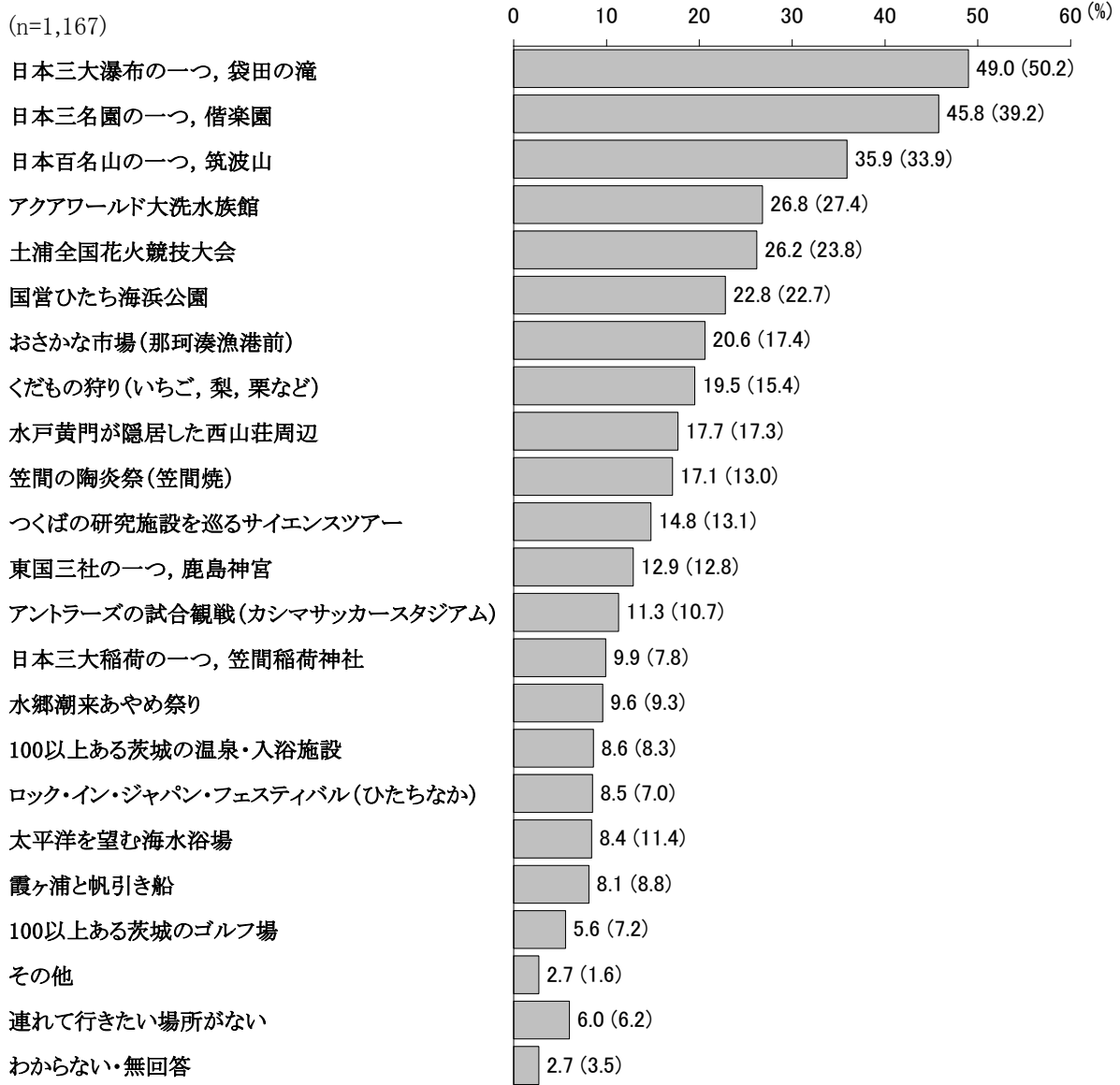
(注) 男性20～29歳, 自由業, 学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。



#### 4. 県外の友人を連れて行きたい茨城県の名所

—「日本三大瀑布の一つ、袋田の滝」が約5割で最も高い—

問4 県外の友人を茨城県に誘う場合、どこに連れて行きたいですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。



※( )内の数値は、平成22年の調査結果

県外の友人を連れて行きたいところとしては、「日本三大瀑布の一つ、袋田の滝」(49.0%)が約5割と最も高く、次いで「日本三名園の一つ、偕楽園」(45.8%)が4割台半ば、「日本百名山の一つ、筑波山」(35.9%)が3割台半ば、「アクアワールド大洗水族館」(26.8%)、「土浦全国花火競技大会」(26.2%)、「国営ひたち海浜公園」(22.8%)、「おさかな市場(那珂湊漁港前)」(20.6%)が2割台で続いている。

前回調査と比べると、「日本三名園の一つ、偕楽園」が約7ポイント増加している。

### —「日本三名園の一つ、偕楽園」は県央で7割を超える—

地域別でみると、「日本三大瀑布の一つ、袋田の滝」は、県北（63.8%）と県央（65.5%）で6割台半ばと高くなっている一方で、県西（31.1%）では3割を超える程度となっている。また、「日本三名園の一つ、偕楽園」は、県央（73.1%）で7割台半ばと最も高く、県北（56.3%）が5割台半ばでこれに次いでいる。「日本百名山の一つ、筑波山」は、県南（54.5%）で5割台半ばと最も高いが、県北（15.7%）や鹿行（17.8%）では1割台後半と低くなっている。

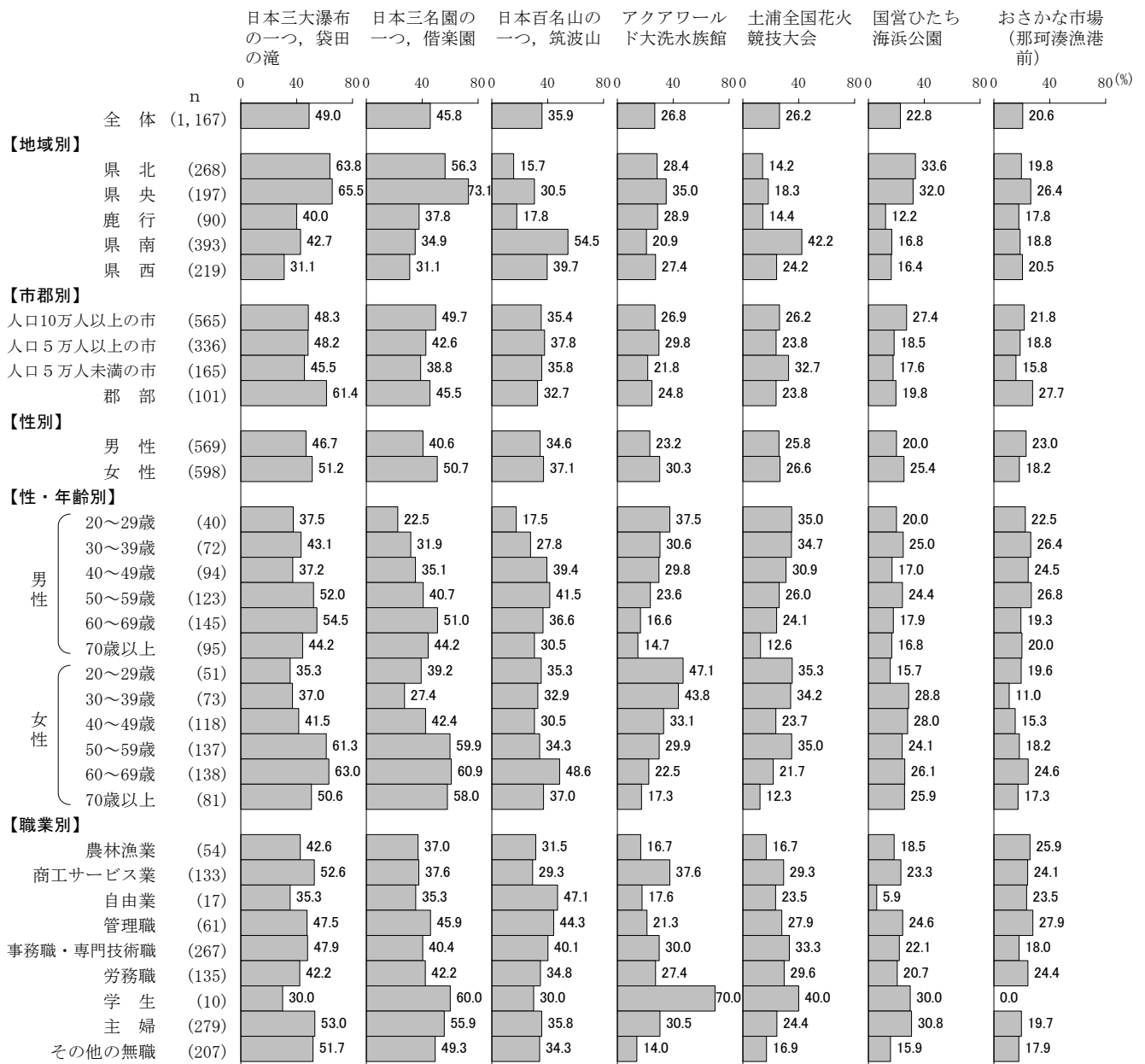
市郡別でみると、「日本三大瀑布の一つ、袋田の滝」は、郡部（61.4%）で6割を超えて最も高くなっている。また、「日本三名園の一つ、偕楽園」は、人口10万人以上の市（49.7%）で約5割、「日本百名山の一つ、筑波山」は、すべての層で3割台、「アクアワールド大洗水族館」は、すべての層で2割台となっている。

性別でみると、「日本三名園の一つ、偕楽園」は、女性（50.7%）が男性（40.6%）よりも約10ポイント高くなっている。また、「アクアワールド大洗水族館」は、女性（30.3%）が男性（23.2%）よりも約7ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「日本三大瀑布の一つ、袋田の滝」は、女性の50代（61.3%）と60代（63.0%）で6割を超えて高く、男性の50代（52.0%）と60代（54.5%）、女性の70歳以上（50.6%）で5割台となっている。また、「日本三名園の一つ、偕楽園」も女性の50代（59.9%）、60代（60.9%）、70歳以上（58.0%）で6割前後と高くなっている。「日本百名山の一つ、筑波山」は、女性の60代（48.6%）で約5割と高く、「アクアワールド大洗水族館」は、男女とも低年齢層ほど高くなっている。

職業別でみると、「日本三大瀑布の一つ、袋田の滝」は、商工サービス業（52.6%）、主婦（53.0%）、その他の無職（51.7%）で5割を超えて高くなっている。また、「日本三名園の一つ、偕楽園」は、主婦（55.9%）で5割台半ば、「日本百名山の一つ、筑波山」は、管理職（44.3%）で4割台半ばとそれぞれ最も高くなっている。

図Ⅱ 4-1 県外の友人を連れて行きたい茨城県の名所  
(地域別, 市郡別, 性別, 性・年齢別, 職業別—上位7項目)

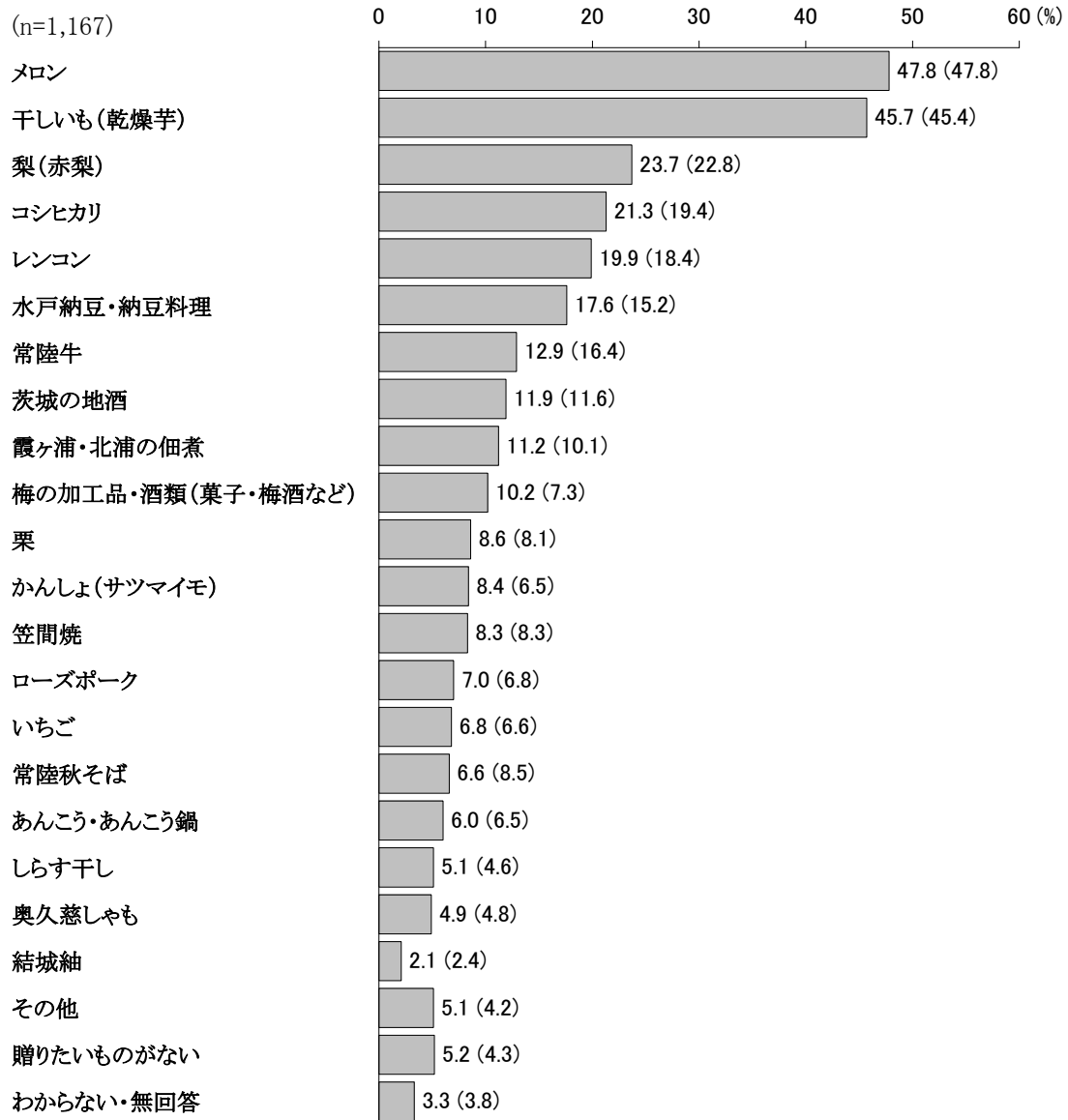


(注) 自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

## 5. 贈答品で贈りたい県産品

—「メロン」と「干しいも（乾燥芋）」が4割台—

問5 お中元・お歳暮などの贈答品に県産品を使う場合、何を贈りたいですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。



※( )内の数値は、平成22年の調査結果

お中元・お歳暮などの贈答品に使う県産品としては、「メロン」(47.8%)が約5割、「干しいも(乾燥芋)」(45.7%)が4割台半ばと高く、次いで「梨(赤梨)」(23.7%)、「コシヒカリ」(21.3%)が2割台で、「レンコン」(19.9%)、「水戸納豆・納豆料理」(17.6%)、「常陸牛」(12.9%)、「茨城の地酒」(11.9%)、「霞ヶ浦・北浦の佃煮」(11.2%)、「梅の加工品・酒類(菓子・梅酒など)」(10.2%)が1割台で続いている。

前回調査と比べると、特に大きな変化はみられない。

## —「メロン」は鹿行で7割台半ば—

地域別でみると、「メロン」は鹿行（76.7%）で7割台半ばと最も高く、県央（69.5%）でも約7割と高くなっている。また、「干しいも（乾燥芋）」は、県北（73.9%）で7割台半ばと高く、「梨（赤梨）」は、県南（30.0%）で、「コシヒカリ」は県西（32.9%）で、「レンコン」は、県南（39.4%）で、「水戸納豆・納豆料理」は県央（34.5%）で、「常陸牛」も県央（21.8%）でそれぞれ高くなっている。

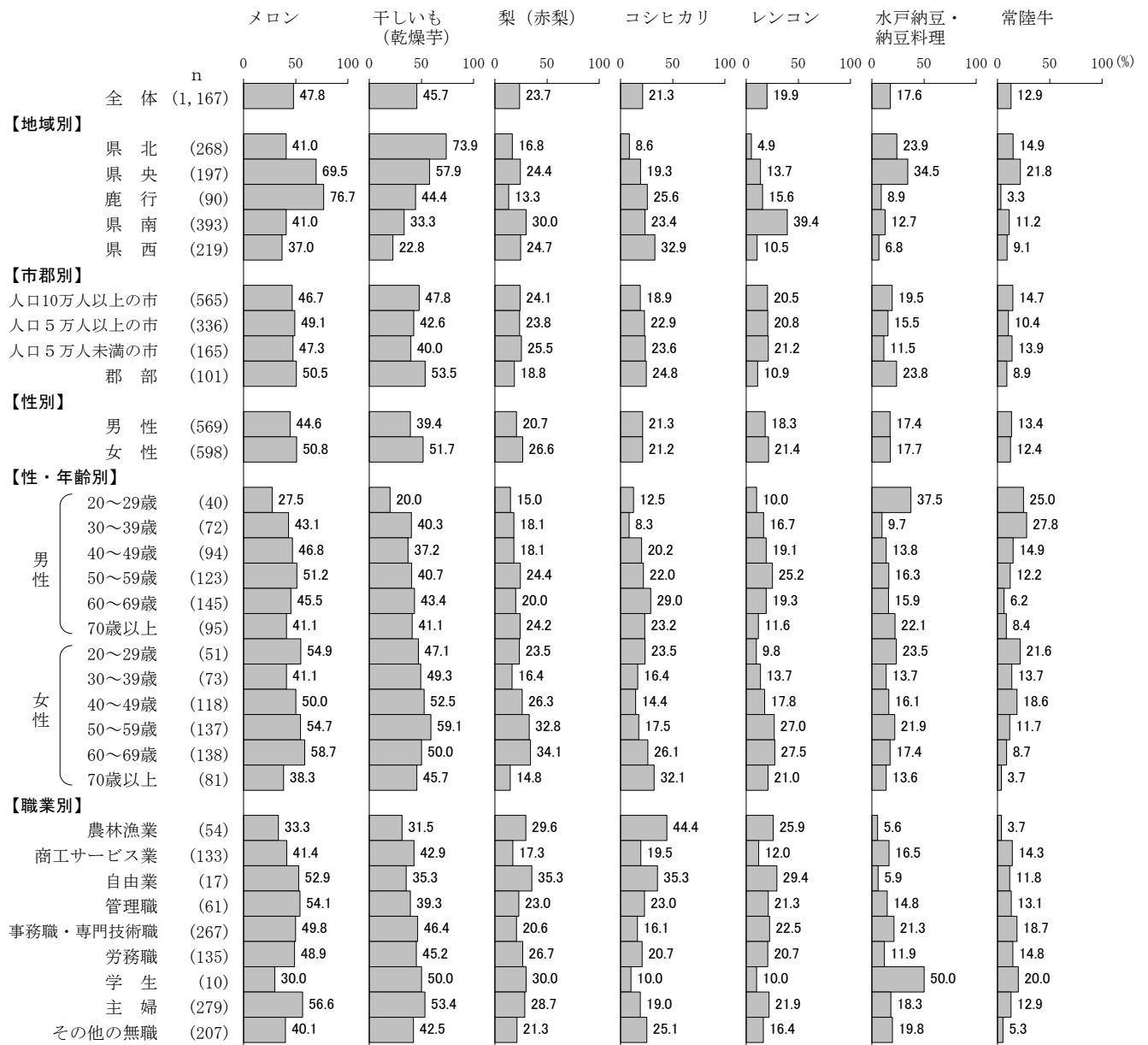
市郡別でみると、「干しいも（乾燥芋）」は、郡部（53.5%）で5割台半ばと高くなっている。また、「梨（赤梨）」と「レンコン」は、郡部以外の層で2割台、「水戸納豆・納豆料理」は、郡部（23.8%）で2割台半ばと高くなっている。

性別でみると、「干しいも（乾燥芋）」は、女性（51.7%）が男性（39.4%）よりも約12ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「メロン」は、女性の60代（58.7%）で約6割と最も高く、女性の20代（54.9%）と50代（54.7%）でも5割台半ばと高くなっている。また、「干しいも（乾燥芋）」は、女性の50代（59.1%）で約6割と高く、女性の40代（52.5%）と60代（50.0%）も5割台となっている。「梨（赤梨）」は、女性の50代（32.8%）と60代（34.1%）で3割台となっている。

職業別でみると、「メロン」は、管理職（54.1%）と主婦（56.6%）で5割台半ばと高くなっている。また、「干しいも（乾燥芋）」は、主婦（53.4%）で5割台半ば、「コシヒカリ」は、農林漁業（44.4%）で4割台半ばとそれぞれ高くなっている。

図Ⅱ 5-1 贈答品で贈りたい県産品  
(地域別, 市郡別, 性別, 性・年齢別, 職業別—上位7項目)



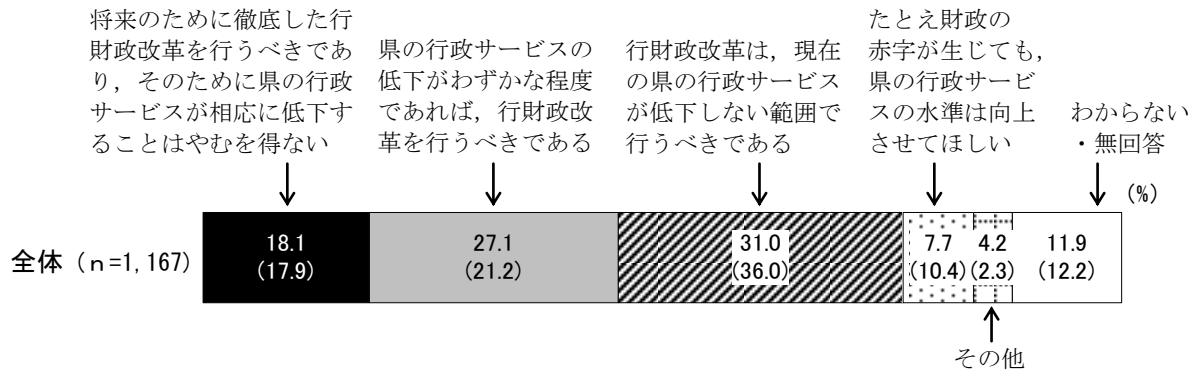
(注) 自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

### Ⅲ 県の行財政改革の取り組み

#### 1. 県の行財政改革の取り組みについて

—「行財政改革は、現在の県の行政サービスが低下しない範囲で行うべき」が3割超—

問6 県の財政は依然として危機的な状況にあり、これからも行財政改革を推進していく必要がありますが、次の中から、あなたの考えに最も近いものを1つだけ選んでください。



※ ( ) 内の数値は、平成20年の調査結果

県の行財政改革については、「行財政改革は、現在の県の行政サービスが低下しない範囲で行うべきである」(31.0%)が最も高く、「県の行政サービスの低下がわずかな程度であれば、行財政改革を行うべきである」(27.1%)、「将来のために徹底した行財政改革を行うべきであり、そのために県の行政サービスが相応に低下することはやむを得ない」(18.1%)と続いている。一方、「たとえ財政の赤字が生じても、県の行政サービスの水準は向上させてほしい」(7.7%)は約1割である。

前回調査と比べると、「行財政改革は、現在の県の行政サービスが低下しない範囲で行うべきである」が約5ポイント減少し、「県の行政サービスの低下がわずかな程度であれば、行財政改革を行うべきである」が約6ポイント増加している。

—「行財政改革は、現在の県の行政サービスが低下しない範囲で行うべき」は男女の40代で約4割—  
地域別でみると、「行財政改革は、現在の県の行政サービスが低下しない範囲で行うべきである」は、県北（34.0%）、県央（34.5%）、鹿行（33.3%）、県南（30.0%）では3割を超えているが、県西（25.1%）では2割台半ばでやや低くなっている。「県の行政サービスの低下がわずかな程度であれば、行財政改革を行うべきである」は、県央（33.0%）と県西（33.3%）で3割台半ばと高くなっている。また、「将来のために徹底した行財政改革を行うべきであり、そのために県の行政サービスが相応に低下することはやむを得ない」は、県南（21.6%）で2割を超えているが、それ以外の地域では1割台半ばとなっている。

市郡別でみると、「行財政改革は、現在の県の行政サービスが低下しない範囲で行うべきである」は、人口5万人以上の市（35.4%）と郡部（35.6%）で3割台半ばと高くなっている。「県の行政サービスの低下がわずかな程度であれば、行財政改革を行うべきである」は、人口10万人以上の市（29.4%）、人口5万人未満の市（30.3%）、郡部（27.7%）で3割前後となっている。

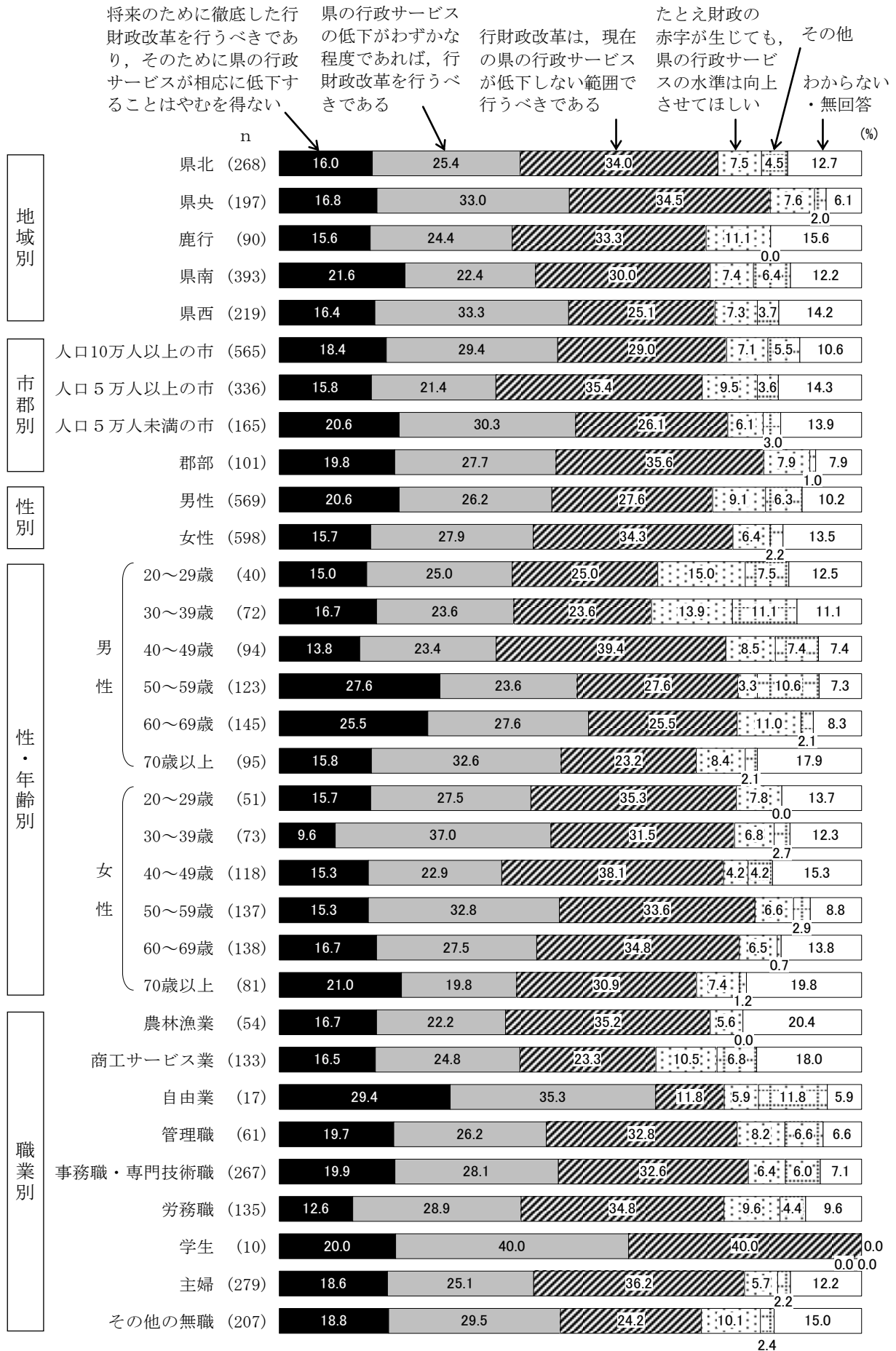
性別でみると、「行財政改革は、現在の県の行政サービスが低下しない範囲で行うべきである」は、女性（34.3%）が男性（27.6%）よりも約7ポイント高く、「将来のために徹底した行財政改革を行うべきであり、そのために県の行政サービスが相応に低下することはやむを得ない」は、男性（20.6%）が女性（15.7%）よりも約5ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「行財政改革は、現在の県の行政サービスが低下しない範囲で行うべきである」は、男女の40代で約4割と高く、女性の20代（35.3%）、50代（33.6%）、60代（34.8%）で3割台半ばとなっている。「県の行政サービスの低下がわずかな程度であれば、行財政改革を行うべきである」は、女性の30代（37.0%）で約4割と最も高く、男性の70歳以上（32.6%）と女性の50代（32.8%）で3割を超えている。「将来のために徹底した行財政改革を行うべきであり、そのために県の行政サービスが相応に低下することはやむを得ない」は、男性の50代（27.6%）と60代（25.5%）で2割台半ばを超えて高くなっている。

職業別でみると、「行財政改革は、現在の県の行政サービスが低下しない範囲で行うべきである」は、農林漁業（35.2%）、管理職（32.8%）、事務職・専門技術職（32.6%）、労務職（34.8%）、主婦（36.2%）で3割を超えている。「県の行政サービスの低下がわずかな程度であれば、行財政改革を行うべきである」は、管理職（26.2%）、事務職・専門技術職（28.1%）、労務職（28.9%）、主婦（25.1%）、その他の無職（29.5%）で2割台半ばを超えている。



図Ⅲ 6-1 県の行財政改革の取り組みについて（地域別，市郡別，性別，性・年齢別，職業別）

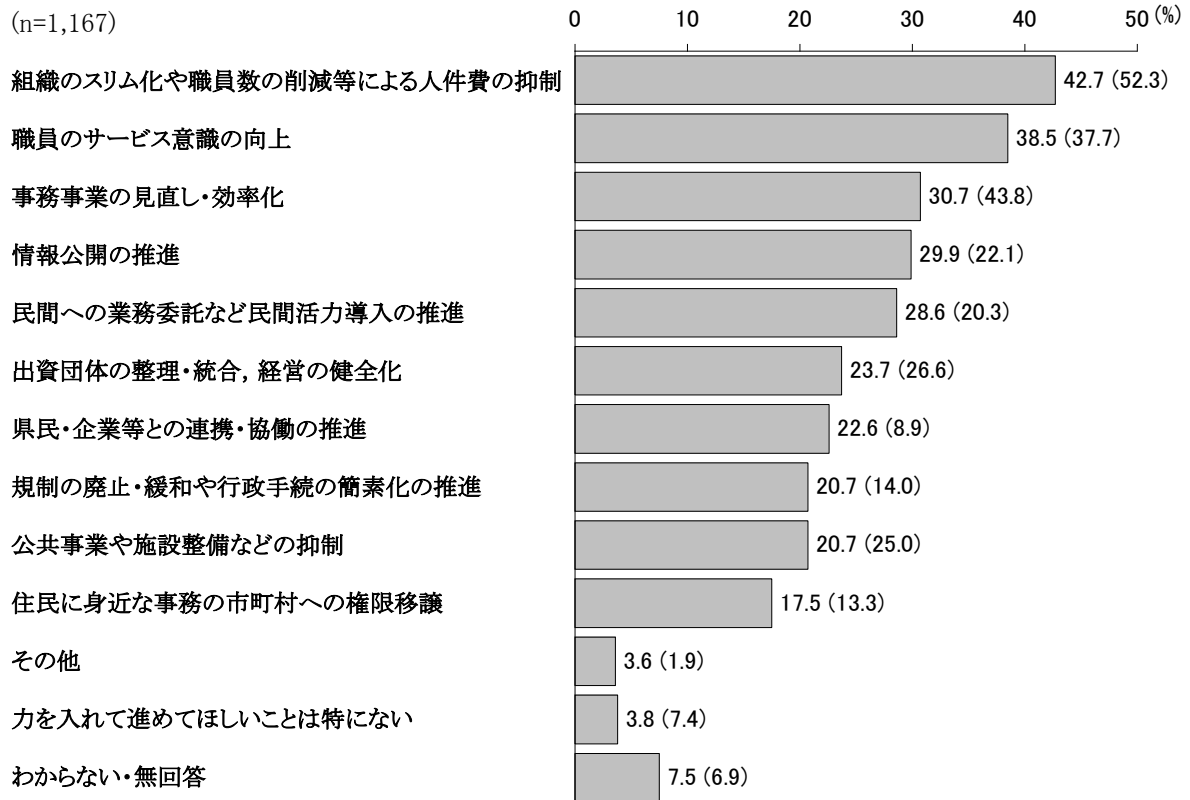


(注) 自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

## 2. 力を入れて進めてほしい行財政改革

—「組織のスリム化や職員数の削減等による人件費の抑制」が4割超—

問7 県では、これまでも組織や仕事のやり方を見直したり、職員数の削減など行財政改革を進めてきましたが、今後、力を入れて進めてほしいことは何ですか。次の中から4つまで選んでください。



※( )内の数値は、平成20年の調査結果

※「民間への業務委託など民間活力導入の推進」は、平成20年は「民間への移管や新たな業務委託など民間活力の一層の導入」、「県民・企業等との連携・協働の推進」は、平成20年は「県民・NPO・企業などとの連携・協働の推進」

力を入れて進めてほしい行財政改革としては、「組織のスリム化や職員数の削減による人件費の抑制」(42.7%)が4割を超えて最も高く、次いで、「職員のサービス意識の向上」(38.5%)、「事務事業の見直し・効率化」(30.7%)が3割台で続いている。

前回調査と比べると、「組織のスリム化や職員数の削減による人件費の抑制」が約10ポイント、「事務事業の見直し・効率化」が約13ポイント減少し、「情報公開の推進」と「民間への業務委託など民間活力導入の推進」が約8ポイント、「県民・企業等との連携・協働の推進」が約14ポイント、「規制の廃止・緩和や行政手続の簡素化の推進」が約7ポイント増加している。

—「組織のスリム化や職員数の削減等による人件費の抑制」は、男性の40代、50代、60代、女性の30代、50代、60代で1位—

地域別でみると、鹿行以外のすべての地域で、「組織のスリム化や職員数の削減等による人件費の抑制」が1位、「職員のサービス意識の向上」が2位となっている。鹿行では、「職員のサービス意識の向上」が1位、「組織のスリム化や職員数の削減等による人件費の抑制」が2位となっており、それ以外の地域と比べて1位と2位が逆転している。

市郡別でみると、郡部以外のすべての層で「組織のスリム化や職員数の削減による人件費の抑制」が1位となっている。また、郡部以外のすべての層で「職員のサービス意識の向上」が2位となっている。郡部では、「職員のサービス意識の向上」が1位、「民間への業務委託など民間活力の導入の推進」が2位となっている。

性別では、男女ともに「組織のスリム化や職員数の削減等による人件費の抑制」が1位、「職員のサービス意識の向上」が2位となっているが、3位以下はそれぞれ異なっている。

性・年齢別でみると、「組織のスリム化や職員数の削減等による人件費の抑制」は、男性の50代、60代、女性の30代、50代、60代で1位となっている。また男性の40代では、「組織のスリム化や職員数の削減による人件費の抑制」と「事務事業の見直し・効率化」が同率で1位となっている。男性の30代、70歳以上、女性の20代、40代では、「職員のサービス意識の向上」が1位、女性の70歳以上では、「職員のサービス意識の向上」と「情報公開の推進」が同率で1位となっている。

職業別でみると、「組織のスリム化や職員数の削減等による人件費の抑制」は、農林漁業と労務職以外のすべての職業で1位となっている。また、農林漁業と労務職では、「職員のサービス意識の向上」が1位となっている。「職員のサービス意識の向上」は、管理職、事務職・専門技術職、主婦、その他の無職で2位となっているが、農林漁業と労務職では、「組織のスリム化や職員数の削減等による人件費の抑制」が2位、商工サービス業では、「民間への業務委託など民間活力導入の推進」が2位となっている。

表Ⅲ 7-1 力を入れて進めてほしい行財政改革（地域別，市郡別—上位5位）

（単位：％）

		n	1位	2位	3位	4位	5位
総数		1,167	組織のスリム化 や職員数の削減 等による人件費 の抑制 42.7	職員のサービス 意識の向上 38.5	事務事業の見直 し・効率化 30.7	情報公開の推進 29.9	民間への業務委 託など民間活力 導入の推進 28.6
【地域別】	県北	268	組織のスリム化 や職員数の削減 等による人件費 の抑制 42.2	職員のサービス 意識の向上 39.6	情報公開の推進 34.0	事務事業の見直 し・効率化 29.9	出資団体の整理 ・統合，経営の 健全化 26.5
	県央	197	組織のスリム化 や職員数の削減 等による人件費 の抑制 49.2	職員のサービス 意識の向上 44.7	事務事業の見直 し・効率化 32.0	民間への業務委 託など民間活力 導入の推進 30.5	情報公開の推進 ／出資団体の整 理・統合，経営 の健全化 28.4
	鹿行	90	職員のサービス 意識の向上 43.3	組織のスリム化 や職員数の削減 等による人件費 の抑制 37.8	事務事業の見直 し・効率化 30.0	民間への業務委 託など民間活力 導入の推進 28.9	情報公開の推進 26.7
	県南	393	組織のスリム化 や職員数の削減 等による人件費 の抑制 44.8	職員のサービス 意識の向上 36.6	事務事業の見直 し・効率化 32.1	民間への業務委 託など民間活力 導入の推進 30.3	情報公開の推進 30.0
	県西	219	組織のスリム化 や職員数の削減 等による人件費 の抑制 35.6	職員のサービス 意識の向上 32.9	事務事業の見直 し・効率化 28.3	民間への業務委 託など民間活力 導入の推進 27.9	情報公開の推進 27.4
【市郡別】	人口10万人以上の市	565	組織のスリム化 や職員数の削減 等による人件費 の抑制 44.4	職員のサービス 意識の向上 39.8	事務事業の見直 し・効率化 32.2	情報公開の推進 30.8	出資団体の整理 ・統合，経営の 健全化 27.8
	人口5万人以上の市	336	組織のスリム化 や職員数の削減 等による人件費 の抑制 41.4	職員のサービス 意識の向上 36.3	民間への業務委 託など民間活力 導入の推進 30.7	情報公開の推進 28.3	事務事業の見直 し・効率化 27.4
	人口5万人未満の市	165	組織のスリム化 や職員数の削減 等による人件費 の抑制 44.2	職員のサービス 意識の向上 37.6	事務事業の見直 し・効率化 35.8	情報公開の推進 32.1	民間への業務委 託など民間活力 導入の推進 23.6
	郡部	101	職員のサービス 意識の向上 39.6	民間への業務委 託など民間活力 導入の推進 36.6	組織のスリム化 や職員数の削減 等による人件費 の抑制 34.7	情報公開の推進 26.7	事務事業の見直 し・効率化 24.8

表Ⅲ 7-2 力を入れて進めてほしい行財政改革（性別，性・年齢別—上位5位）

（単位：％）

		n	1位	2位	3位	4位	5位	
【性別】	男性	569	組織のスリム化や職員数の削減等による人件費の抑制 43.6	職員のサービス意識の向上 38.1	民間への業務委託など民間活力導入の推進 30.4	事務事業の見直し・効率化 29.2	情報公開の推進 28.5	
	女性	598	組織のスリム化や職員数の削減等による人件費の抑制 41.8	職員のサービス意識の向上 38.8	事務事業の見直し・効率化 32.1	情報公開の推進 31.3	民間への業務委託など民間活力導入の推進 26.9	
【性・年齢別】	男性	20～29歳	40	県民・企業等との連携・協働の推進 37.5	組織のスリム化や職員数の削減等による人件費の抑制 35.0	職員のサービス意識の向上 32.5	事務事業の見直し・効率化 30.0	情報公開の推進 27.5
		30～39歳	72	職員のサービス意識の向上 43.1	組織のスリム化や職員数の削減等による人件費の抑制 40.3	情報公開の推進 36.1	民間への業務委託など民間活力導入の推進 30.6	出資団体の整理・統合，経営の健全化 29.2
		40～49歳	94	組織のスリム化や職員数の削減等による人件費の抑制／事務事業の見直し・効率化 40.4	職員のサービス意識の向上 36.2	出資団体の整理・統合，経営の健全化 26.6	民間への業務委託など民間活力導入の推進／公共事業や施設整備などの抑制 24.5	
		50～59歳	123	組織のスリム化や職員数の削減等による人件費の抑制 52.8	職員のサービス意識の向上 42.3	事務事業の見直し・効率化 35.0	出資団体の整理・統合，経営の健全化／規制の廃止・緩和や行政手続の簡素化の推進 29.3	
		60～69歳	145	組織のスリム化や職員数の削減等による人件費の抑制 47.6	民間への業務委託など民間活力導入の推進 40.7	職員のサービス意識の向上 34.5	出資団体の整理・統合，経営の健全化 31.0	情報公開の推進 30.3
		70歳以上	95	職員のサービス意識の向上 38.9	組織のスリム化や職員数の削減等による人件費の抑制 34.7	民間への業務委託など民間活力導入の推進 28.4	情報公開の推進 26.3	出資団体の整理・統合，経営の健全化 23.2
		女性	20～29歳	51	職員のサービス意識の向上 45.1	県民・企業等との連携・協働の推進 43.1	事務事業の見直し・効率化 33.3	組織のスリム化や職員数の削減等による人件費の抑制／情報公開の推進 29.4
	30～39歳		73	組織のスリム化や職員数の削減等による人件費の抑制 42.5	職員のサービス意識の向上 39.7	事務事業の見直し・効率化 34.2	民間への業務委託など民間活力導入の推進 27.4	情報公開の推進 24.7
	40～49歳		118	職員のサービス意識の向上 42.4	組織のスリム化や職員数の削減等による人件費の抑制 39.8	事務事業の見直し・効率化 39.0	民間への業務委託など民間活力導入の推進／県民・企業等との連携・協働の推進 31.4	
	50～59歳		137	組織のスリム化や職員数の削減等による人件費の抑制 47.4	職員のサービス意識の向上 38.7	情報公開の推進 38.0	事務事業の見直し・効率化 37.2	民間への業務委託など民間活力導入の推進 28.5
	60～69歳		138	組織のスリム化や職員数の削減等による人件費の抑制 50.0	職員のサービス意識の向上 37.7	情報公開の推進 31.9	事務事業の見直し・効率化 26.8	民間への業務委託など民間活力導入の推進 26.1
	70歳以上		81	職員のサービス意識の向上／情報公開の推進 30.9	組織のスリム化や職員数の削減等による人件費の抑制 28.4	民間への業務委託など民間活力導入の推進 22.2	事務事業の見直し・効率化／住民に身近な事務の市町村への権限移譲 19.8	

表Ⅲ 7-3 力を入れて進めて欲しい行財政改革（職業別—上位5位）

（単位：％）

		n	1位	2位	3位	4位	5位
【職業別】	農林漁業	54	職員のサービス意識の向上 51.9	組織のスリム化や職員数の削減等による人件費の抑制 42.6	情報公開の推進 27.8	民間への業務委託など民間活力導入の推進 24.1	住民に身近な事務の市町村への権限移譲 22.2
	商工サービス業	133	組織のスリム化や職員数の削減等による人件費の抑制 44.4	民間への業務委託など民間活力導入の推進 30.1	職員のサービス意識の向上 27.8	公共事業や施設整備などの抑制 26.3	情報公開の推進 24.8
	自由業	17	情報公開の推進 52.9	組織のスリム化や職員数の削減等による人件費の抑制 47.1	事務事業の見直し・効率化 41.2	民間への業務委託など民間活力導入の推進／出資団体の整理・統合、経営の健全化／県民・企業等との連携・協働の推進 35.3	
	管理職	61	組織のスリム化や職員数の削減等による人件費の抑制 55.7	職員のサービス意識の向上 47.5	事務事業の見直し・効率化 37.7	規制の廃止・緩和や行政手続の簡素化の推進 36.1	公共事業や施設整備などの抑制 27.9
	事務職・専門技術職	267	組織のスリム化や職員数の削減等による人件費の抑制 44.2	職員のサービス意識の向上 41.9	事務事業の見直し・効率化 39.7	出資団体の整理・統合、経営の健全化 33.0	情報公開の推進 28.5
	労務職	135	職員のサービス意識の向上 47.4	組織のスリム化や職員数の削減等による人件費の抑制 43.0	情報公開の推進 37.0	事務事業の見直し・効率化 35.6	県民・企業等との連携・協働の推進 30.4
	学生	10	県民・企業等との連携・協働の推進 60.0	事務事業の見直し・効率化 50.0	職員のサービス意識の向上 40.0	情報公開の推進／住民に身近な事務の市町村への権限移譲 30.0	
	主婦	279	組織のスリム化や職員数の削減等による人件費の抑制 41.6	職員のサービス意識の向上 38.0	情報公開の推進 33.7	事務事業の見直し・効率化／民間への業務委託など民間活力導入の推進 29.7	
その他の無職	207	組織のスリム化や職員数の削減等による人件費の抑制 38.6	職員のサービス意識の向上 31.9	民間への業務委託など民間活力導入の推進 31.4	情報公開の推進 29.0	出資団体の整理・統合、経営の健全化 24.2	

（注）自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

